

らくらくドキュメントサーチ

SQL Server2022 インストールと設定手順書

V4L30

第 1.5 版

株式会社豊里システムソリューション

はじめに

本書は、らくらくドキュメントサーチで使用する Microsoft SQL Server 2022 Express のインストールと環境設定を行うための手順を記載しています。

SQL Server は、Windows Server 2022 または Windows 10/Windows 11 のいずれかにインストールします。

本書は、SQL Server 2022 Express エディションを中心に記載していますが、SQL Server 2022 Standard エディションでも概ね同様です

らくらくドキュメントサーチについては、下記のサイトを参照願います。

<https://www.tssol.jp/products/docsearch/>

動作環境

らくらくドキュメントサーチで使用する Microsoft SQL Server 2022 Express エディションをインストールする PC の動作環境は以下の通りです。

らくらくドキュメントサーチをスタンドアロン（1 台のみで運用する）または、最大で 3 台までの PC で運用する場合は、Windows PC にインストールすることができます。

この場合、Microsoft SQL Server 2022 Express エディションをインストールする PC は、1 台のみにインストールします。

- ・ Windows PC の OS : Windows 10 または Windows 11

4 台以上の PC で運用する場合は、Microsoft SQL Server 2022 Express のインストールは、Windows Server 2022 Standard Edition にインストールします。従って、この場合は専用のサーバ機が必要となります。

- ・ サーバ機の OS : Windows Server 2022 Standard Edition

SQL Server 2022 Express Edition がインストール済の場合

らくらくドキュメントサーチで使用するデータベースのインスタンス名は、らくらくドキュメントサーチ専用の「SQLEXPRESS」を使用します。

従って、既に Microsoft SQL Server 2022 Express Edition がインストールされていても、インスタンスの新規インストールとしてインストールする必要があります。なお、この場合のインストール手順も本書の手順書に従ってインストールします。

更新履歴

版数	日付	変更内容	対象項
初版	2023/1/19		
1.4	2023/9/25	Windows 認証から SQL Server 認証変更手順を追記	6.5

目次

1. 設定内容	5
2. SQL Server2022 Express のインストール	6
2.1 ダウンロード	6
2.2 インストール	9
3. TCP1433 ポートと UDP1434 を解放する	18
4. TCP/IP を有効にする	23
5. SQL Server Management Studio をインストールする	31
6. SQL Server の設定	34
6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。	34
6.2 サーバの認証方法を Windows 認証から SQL 認証に変更する	35
6.3 リモート接続が許可されている事を確認します。	37
6.4 新しいログイン名の作成	38
6.5 ログインで、エラー 18456 でログインできない場合の対処	42
6.6 新しいデータベースの作成	44
6.7 テーブルを作成する	48
6.8 データベースユーザを作成する	53
6.9 セキュリティ可能なリソースを設定する	55
6.10 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する	60
6.11 データベースがリモート接続可能な設定を行なう	61
7. テーブル仕様	63
8. 添付資料	65
8.1 検索キーデータテーブル作成用 SQL スクリプト	65
8.2 利用者情報テーブル作成用 SQL スクリプト	66
8.3 ログテーブル作成用 SQL スクリプト	67

1. 設定内容

SQL Server の設定内容を、以下まとめて記す。

次項以降、この設定を行うための SQL Server2022 のインストール手順、ならびに設定の詳細手順について記す。

設定項目	設定値
インスタンス名	SQLEXPRESS
リモート接続用ポート	TCP:1433
	UDP:1434
認証モード	混合認証
DB 接続時のログイン ID	DocSearch
パスワード	DocSearch!admin
データベース名	DocSearchsqldb
データベースの場所	D:\docsearchsqldb
初期値の容量[MB]	256MB
増分値[MB]	64MB 単位で無制限
検索キーデータテーブル	tbl_DocRegdb
利用者情報管理テーブル	tbl_UserAccount
ログテーブル	tbl_Log

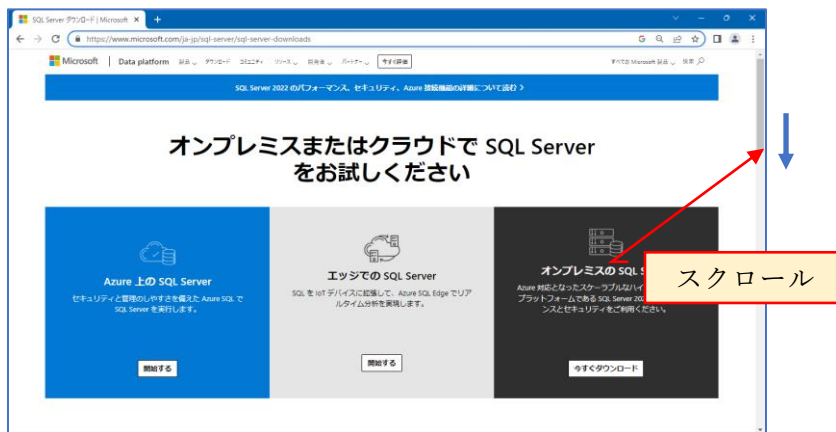
2. SQL Server2022 Express のインストール

既に SQL Server の他のエディション、または、SQL Server 2022 Express がインストールされている場合でも、新規にインスタンス名 SQLEXPRESS のインストールをする必要があるため、この章の実行は省略することができません。

2.1 ダウンロード

Microsoft の下記のダウンロードサイトを開きます

<https://www.microsoft.com/ja-jp/sql-server/sql-server-downloads>



画面を下方にスクロールして、Express のダウンロードボタンを表示します。



Express の下の「今すぐダウンロード」をクリックすると、ダウンロードフォルダに SQL2022-SSEI-Expr.exe というインストール用プログラムがダウンロードされます。

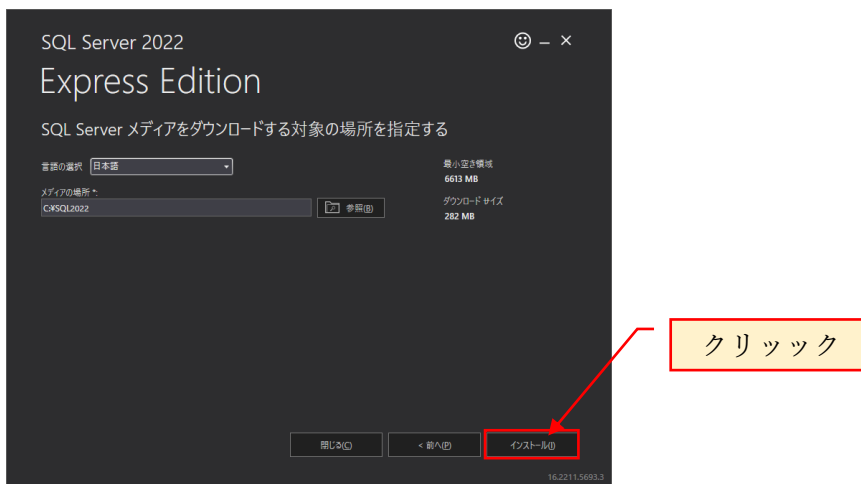
ダウンロードフォルダの SQL2022-SSEI-Expr.exe を実行するか、または、画面左下に表示されている SQL2022-SSEI-Expr をクリックします。

ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので「はい」を応答します。
下記の画面が表示されます。

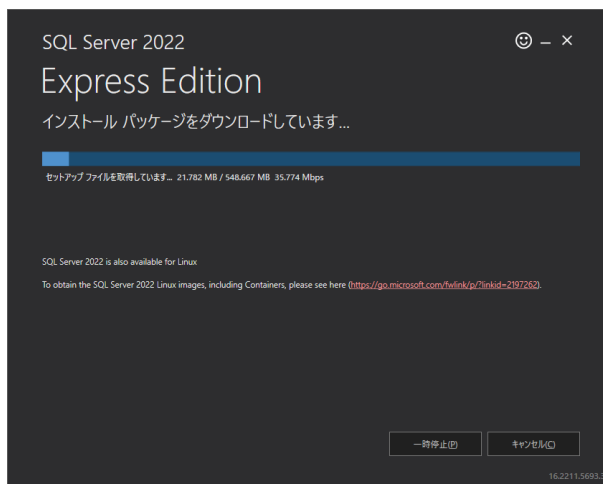
「カスタム」をクリックします。



SQL Server インストールメディアのダウンロード先は標準とし、変更せずに「インストール」をクリックします。



「インストールパッケージをダウンロードしています」と表示されます。

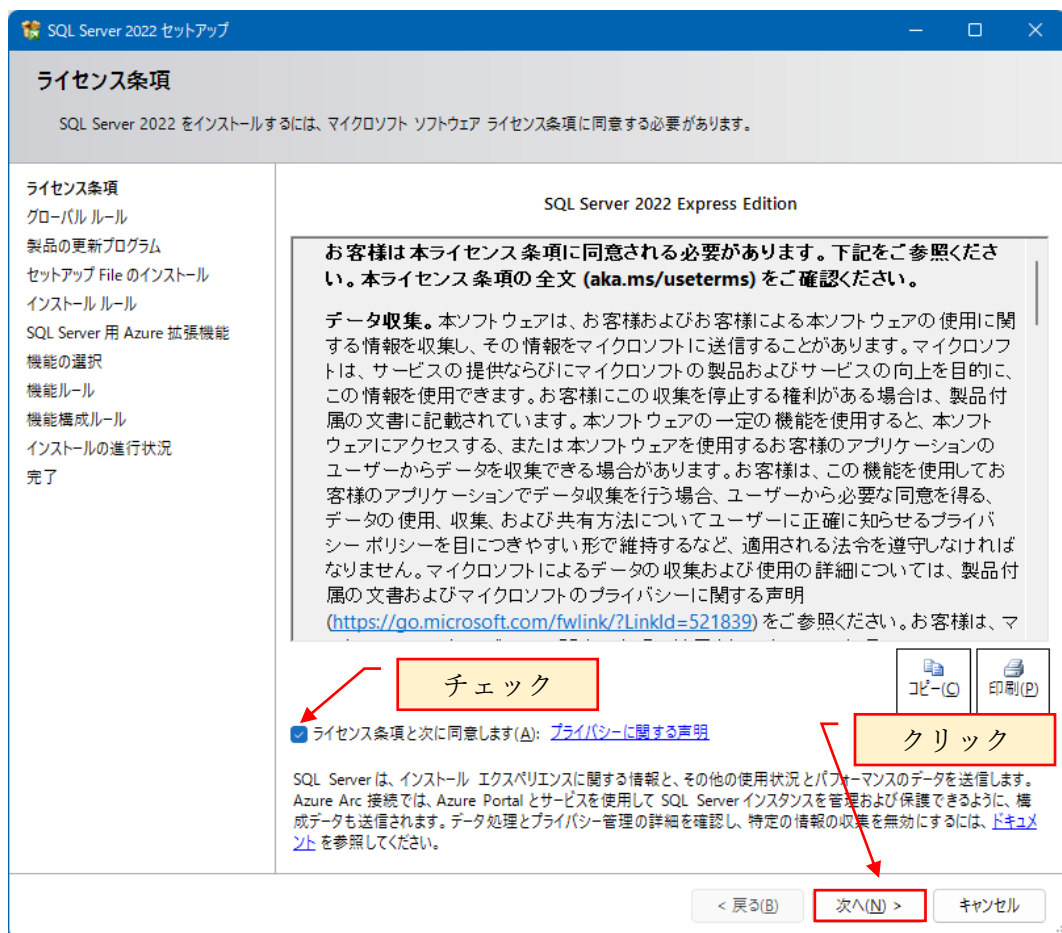


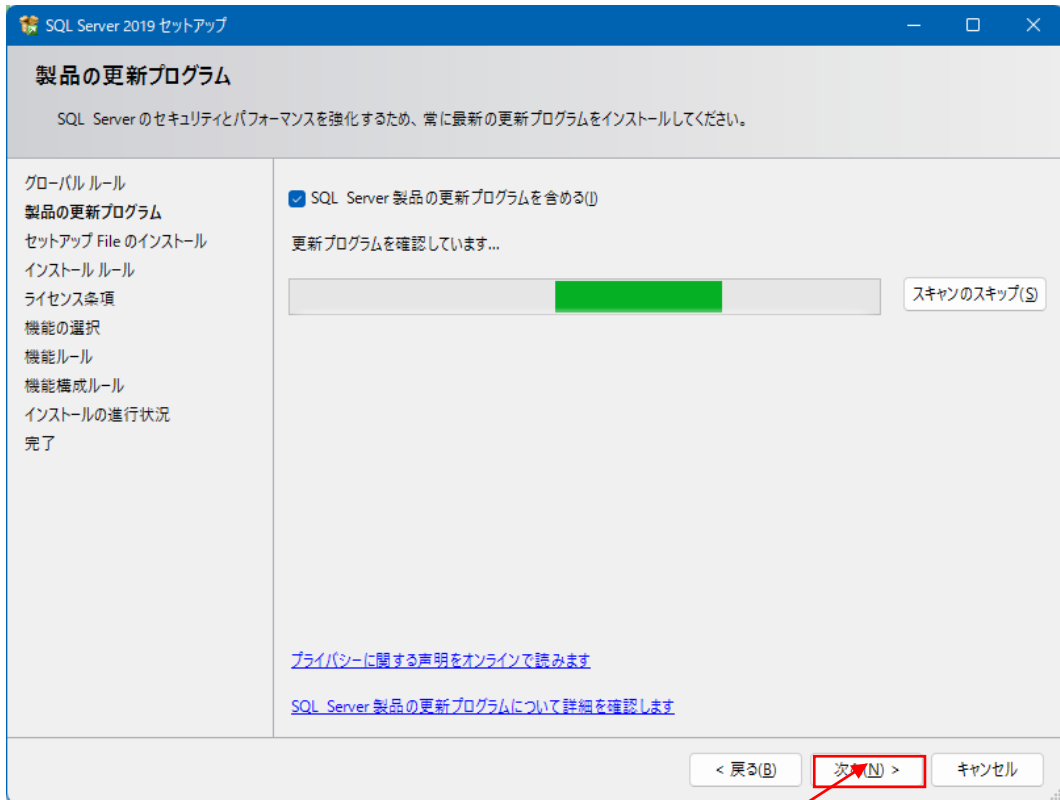
インストールパッケージのダウンロードが完了すると、自動的に下記の SQL Server インストールセンターが表示されます。



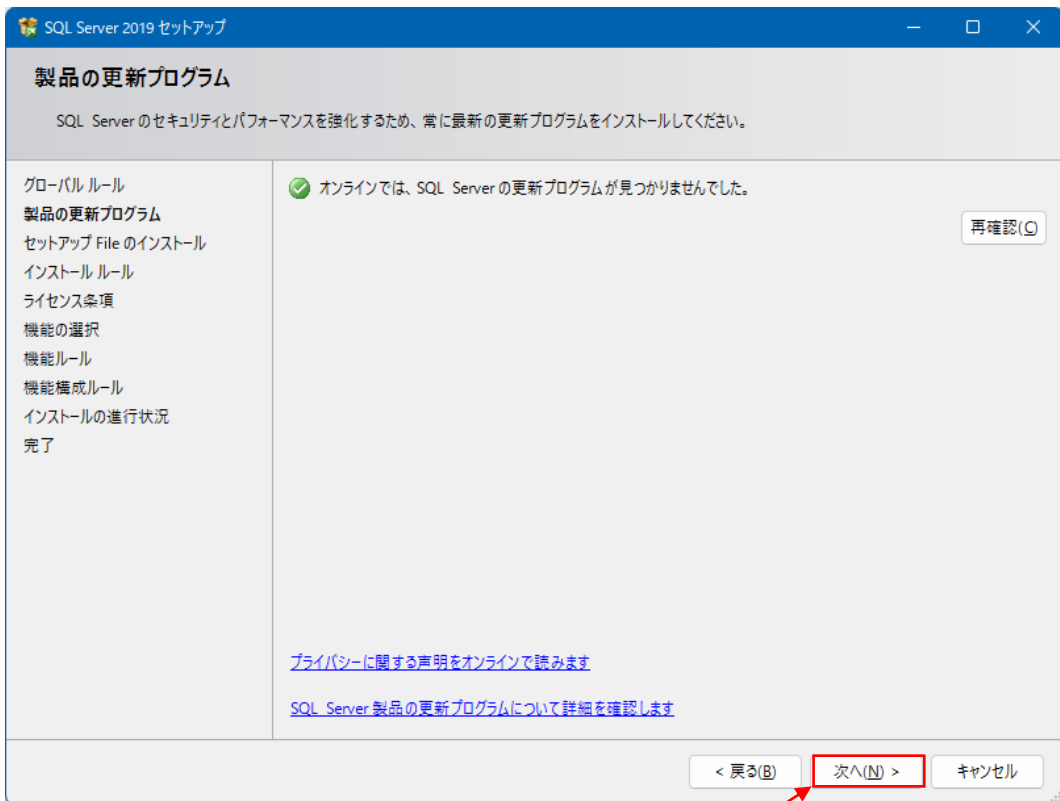
2.2 インストール

※下記画面の内容は、SQL Server のバージョンによって異なる場合があります。

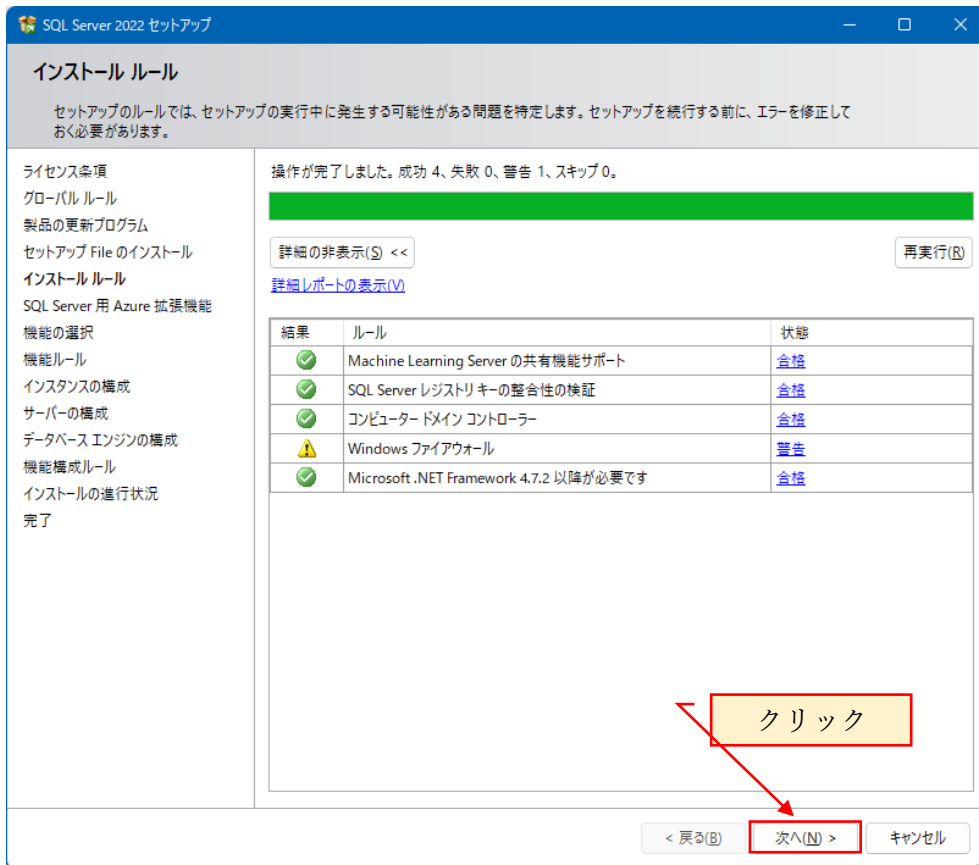




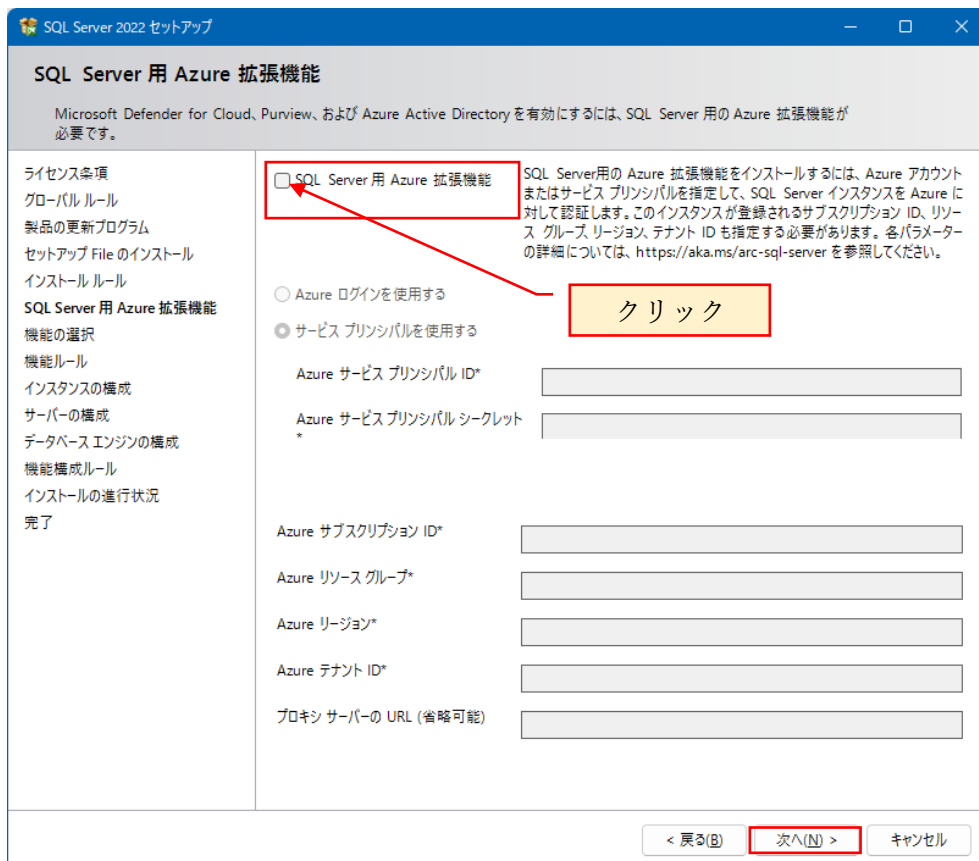
クリック



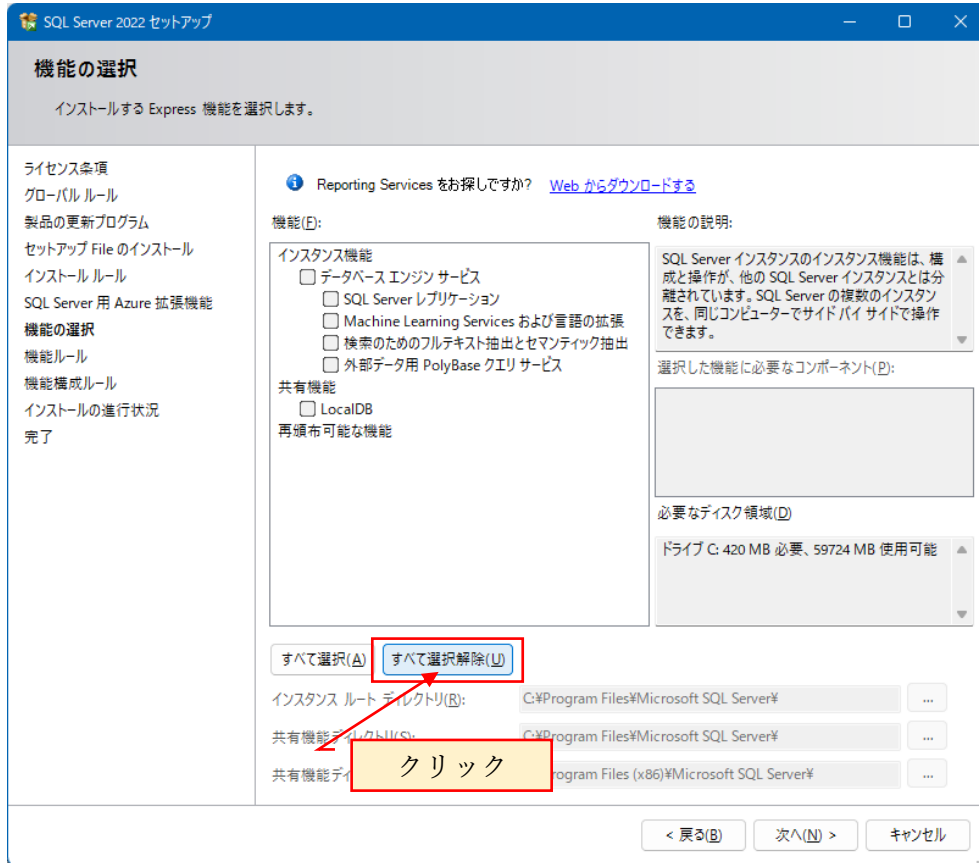
クリック



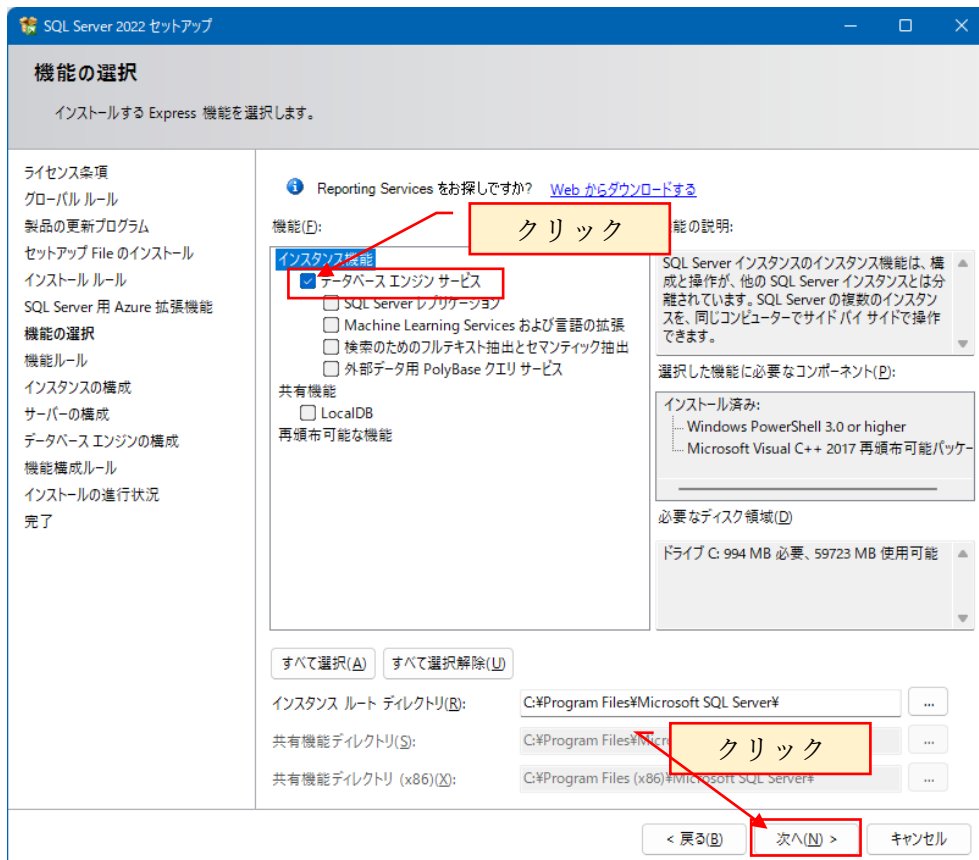
SQL Server 用 Azure 拡張機能のチェックを外す



機能の選択で、「すべて選択解除」をクリックします。



「データベースエンジンサービス」のみチェックを入れます。



SQL Server 2022 セットアップ

インスタンスの構成

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

ライセンス条項

グローバル ルール

製品の更新プログラム

セットアップ File のインストール

インストール ルール

SQL Server 用 Azure 拡張機能

機能の選択

機能ルール

インスタンスの構成

サーバーの構成

データベース エンジンの構成

機能構成ルール

インストールの進行状況

完了

☐ 既定のインスタンス(D)

☒ 名前付きインスタンス(A): * MSSQLSERVER

インスタンス ID(I): MSSQLSERVER

SQL Server ディレクトリ: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL16.MSSQLSERVER

インストール済みのインスタンス(L):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
MSSQLSERVER	MSSQL15.MSSQLS...	SQLEngine	Express	15.0.2095.3
SQLEXPRESS	MSSQL15.SQLEXP...	SQLEngine	Express	15.0.2095.3

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

ここで、インスタンス名を MSSQLSERVER から SQLEXPRESS に変更します。

SQL Server 2022 セットアップ

インスタンスの構成

SQL Server インスタンスの名前およびインスタンス ID を指定します。インスタンス ID は、インストール パスの一部になります。

ライセンス条項

グローバル ルール

製品の更新プログラム

セットアップ File のインストール

インストール ルール

SQL Server 用 Azure 拡張機能

機能の選択

機能ルール

インスタンスの構成

サーバーの構成

データベース エンジンの構成

機能構成ルール

インストールの進行状況

完了

☐ 既定のインスタンス(D)

☒ 名前付きインスタンス(A): * **SQLEXPRESS**

インスタンス ID(I): **SQLEXPRESS**

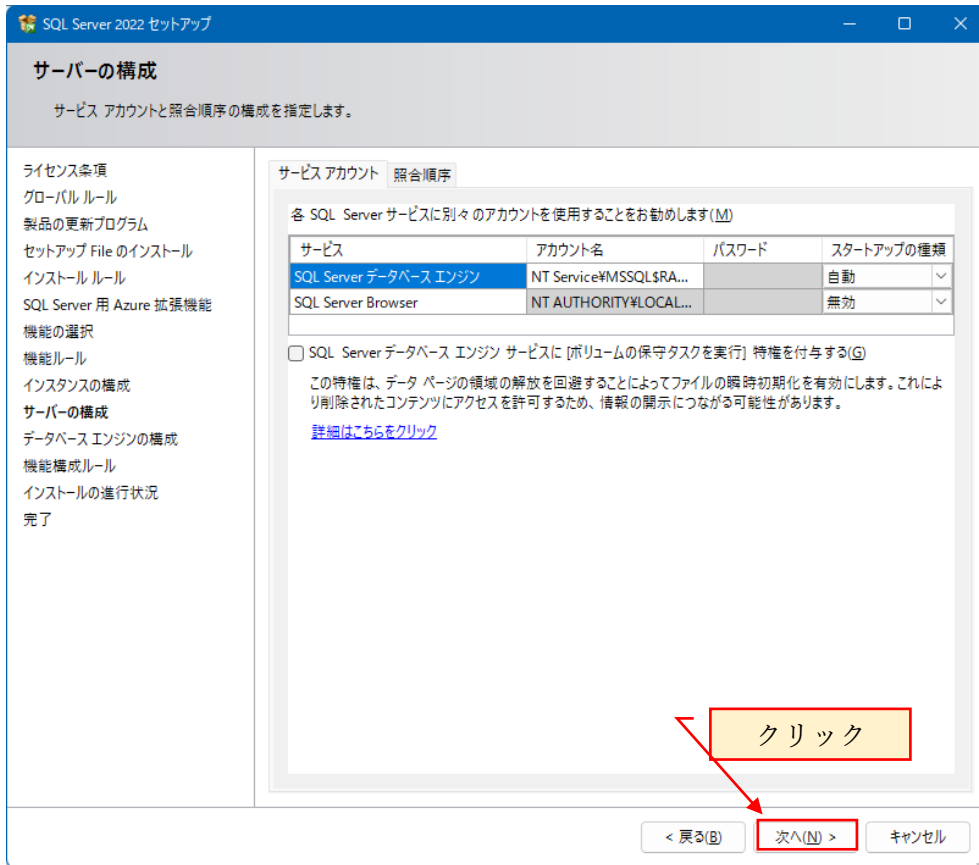
SQL Server ディレクトリ: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL16.RAKURAKU

インストール済みのインスタンス(L):

インスタンス名	インスタンス ID	機能	エディション	バージョン
MSSQLSERVER	MSSQL15.MSSQLS...	SQLEngine	Express	15.0.2095.3
SQLEXPRESS	MSSQL15.SQLEXP...	SQLEngine	Express	15.0.2095.3

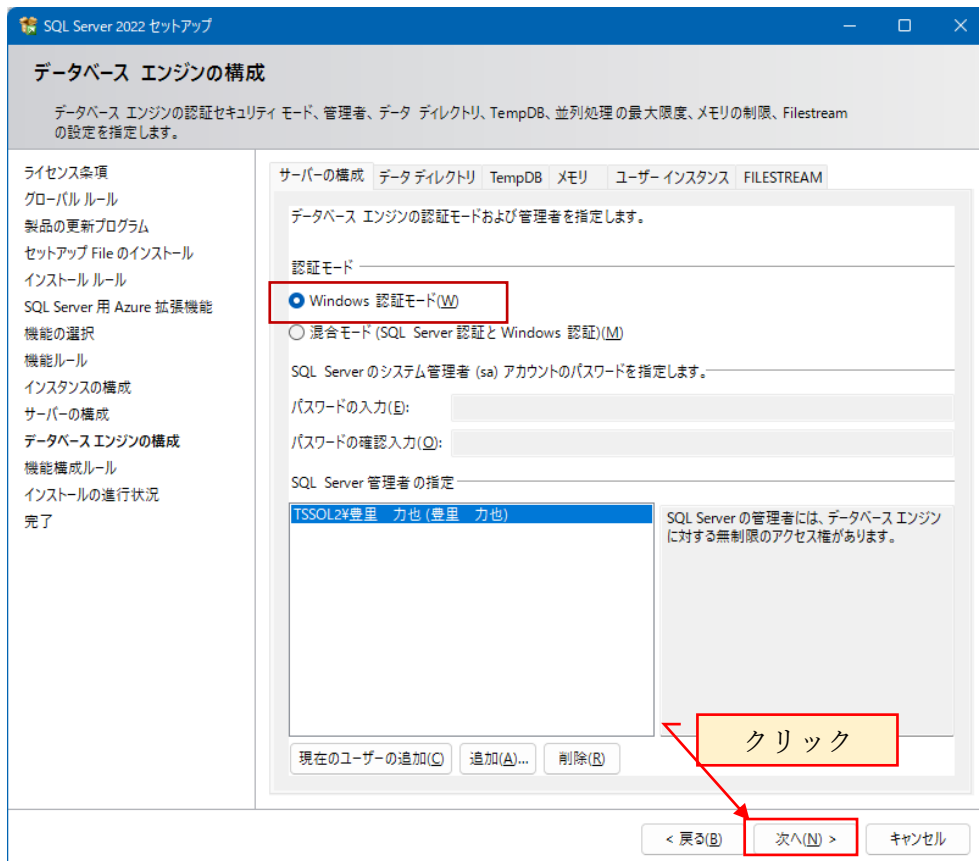
< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

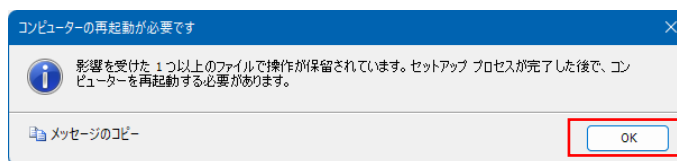
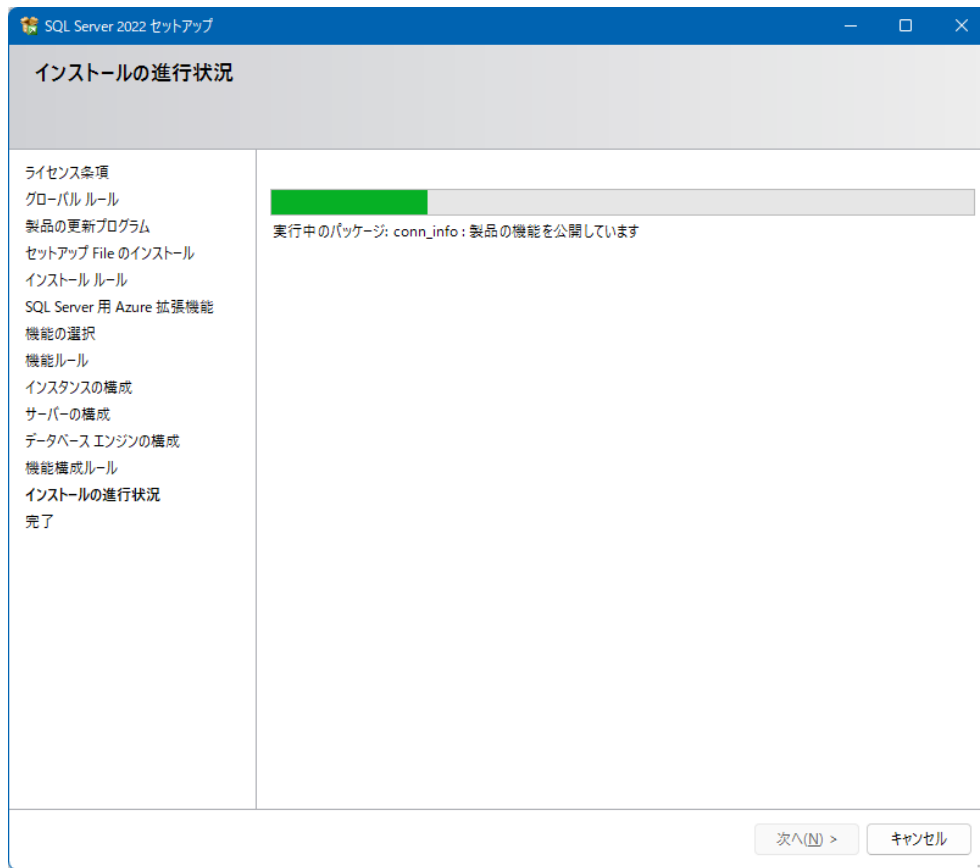
クリック

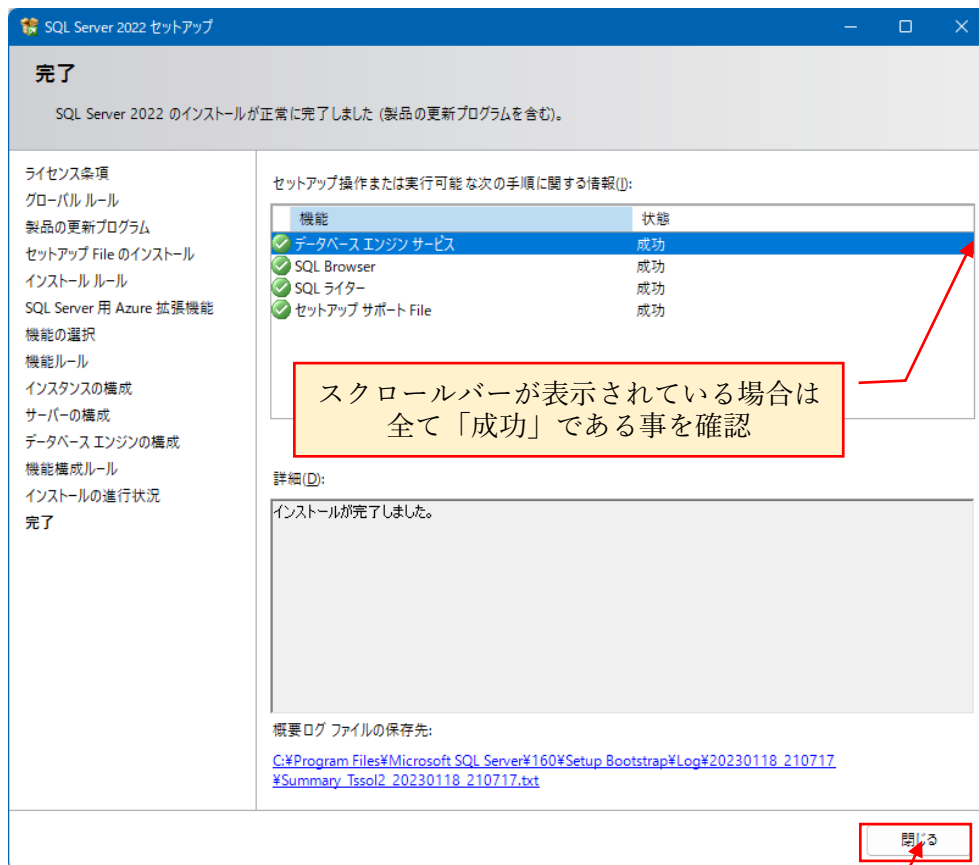


ここでは、Windows 認証のまま続行します。

SQL Server 認証への変更は新しいユーザの作成で行います。







完了画面が表示されます。

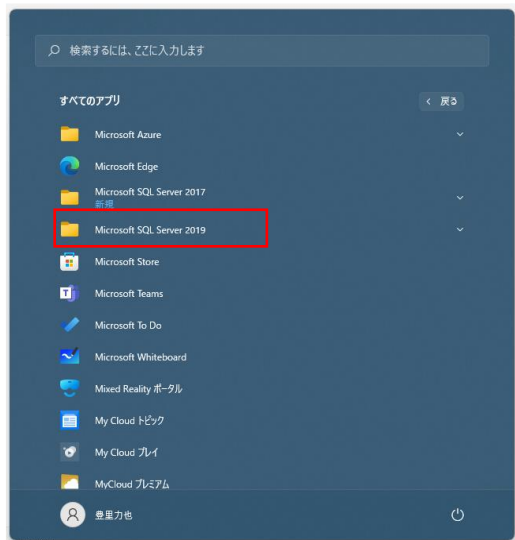
クリック

表示される機能は、既に SQL Server がインストールされている環境か新規にインストールする環境下によって異なります。

インストールされた機能が全て「成功」となっている事を確認し、「閉じる」をクリックしてインストールを終了します。

インストールを完了するため、再起動します。

SQL Server がインストールされると、スタートメニューに表示されます。
スタートメニューに Microsoft SQL Server 2022 が表示されているかを確認します。



これで、Microsoft SQL Server2022 Express のインストールは終了です。

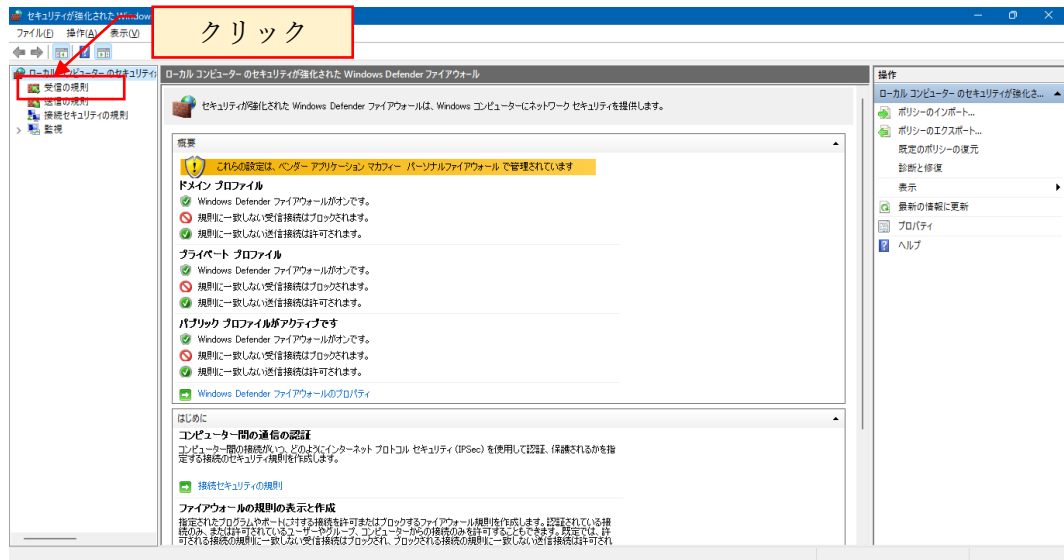
3. TCP1433 ポートと UDP1434 を解放する

既に TCP1433 と UDP1434 ポートが解放されている場合は、この章を Skip します。

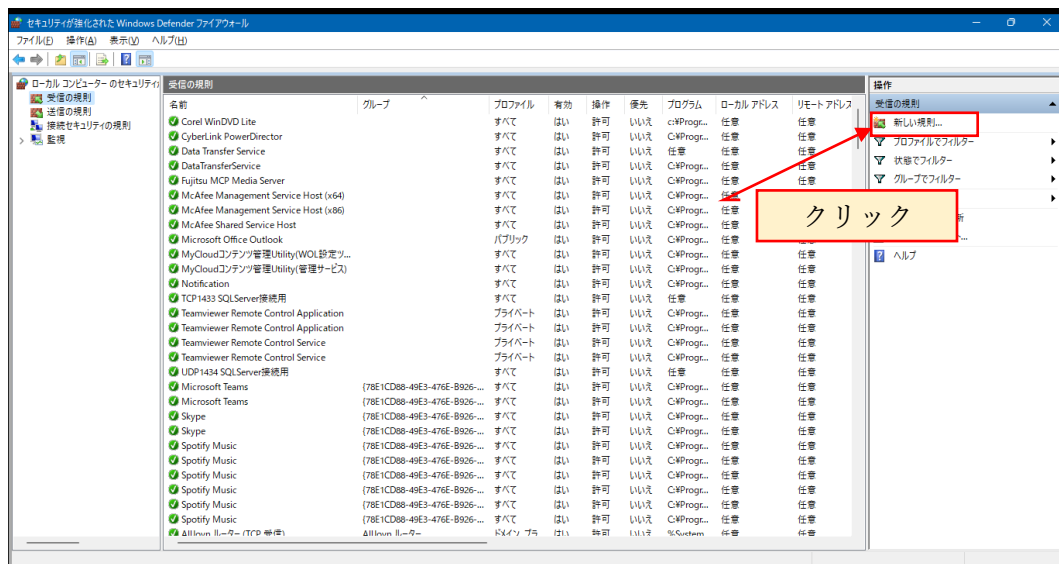
Windows Server の場合は、サーバーマネージャーを開き、「Windows ファイアウォール」の設定をクリック。

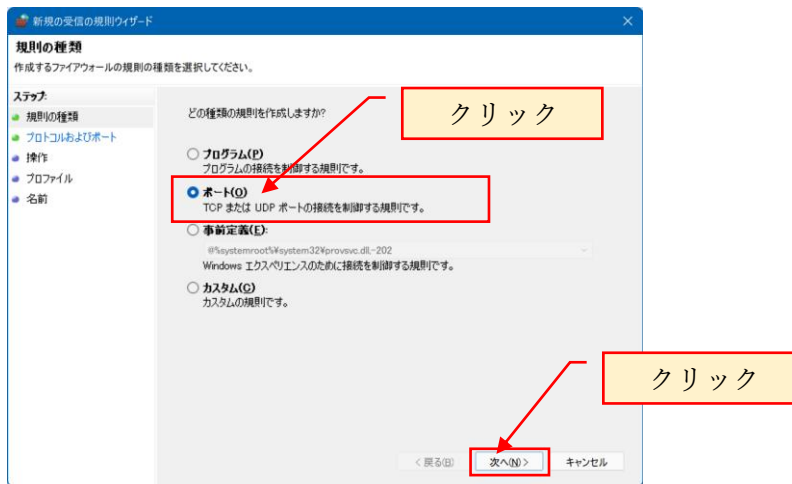
Windows10/Windows11 の場合は、コントロールパネル>システムとセキュリティ>Windows Defender ファイアウォール画面を開き、詳細設定をクリックします。

下記の例は、Windows11 での画面を示しています。

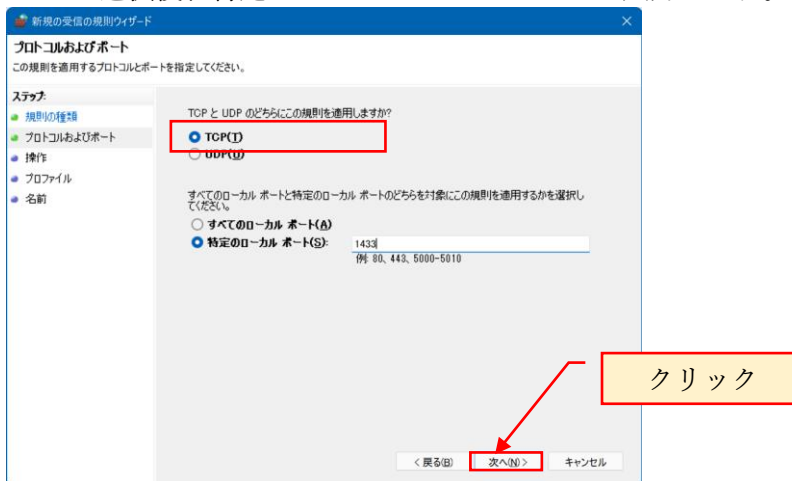


新しい規則をクリックします。



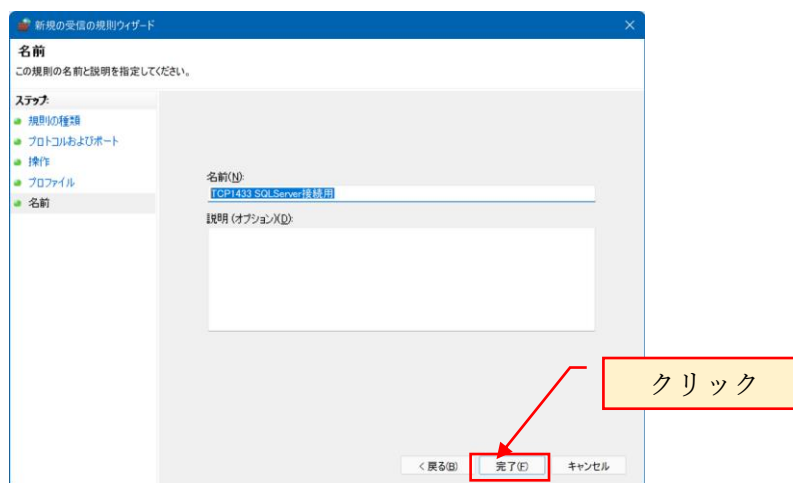


TCP を選択後、特定のローカルポートに 1433 と入力します。

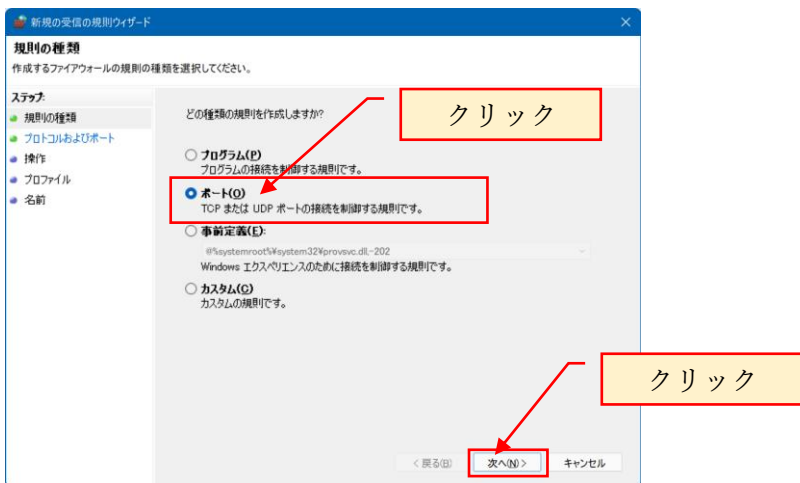
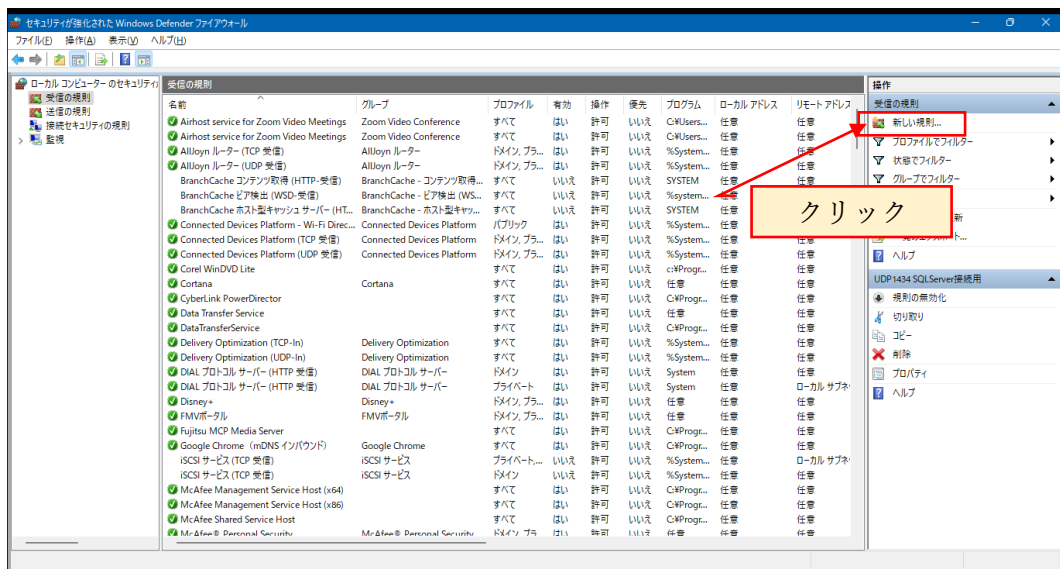




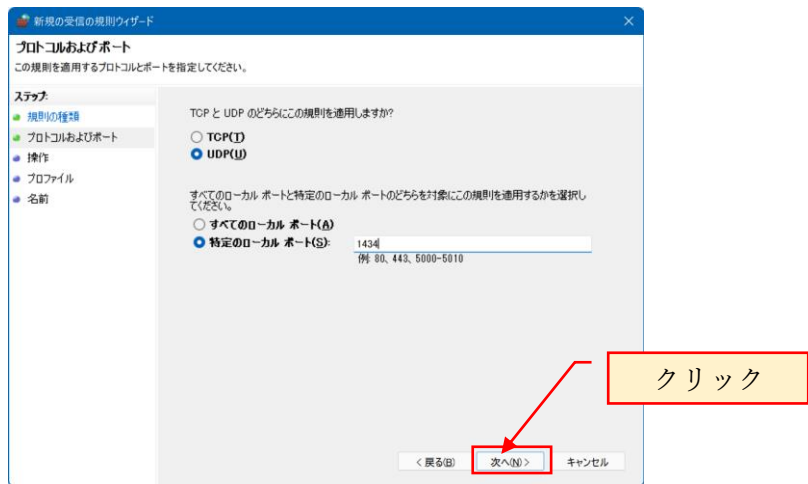
名前には自由に設定できますが、ここでは「TCP1433 SQLServer 接続用」とします。

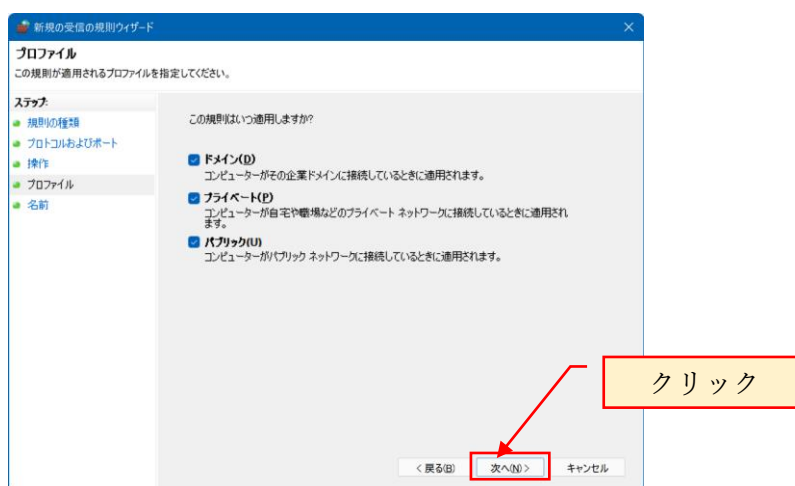


続いて、UDP ポートを設定します。

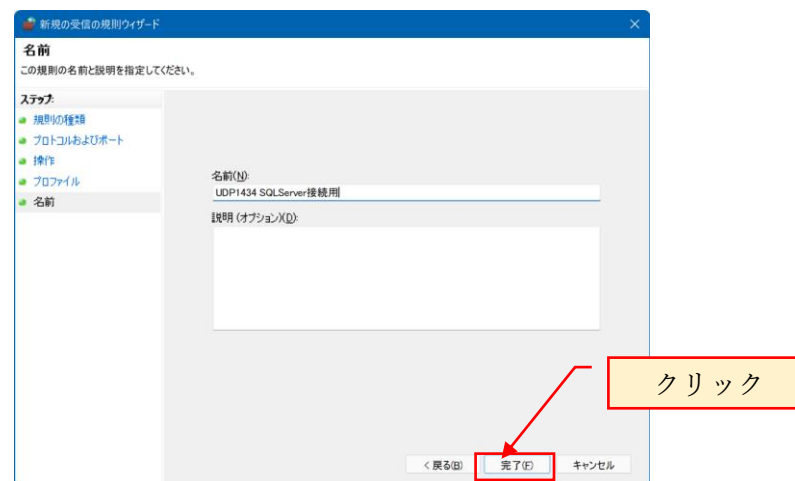


UDP を選択後、特定のローカルポートに 1434 と入力します。





名前には自由に設定できますが、ここでは「UDP1434 SQLServer 接続用」とします。

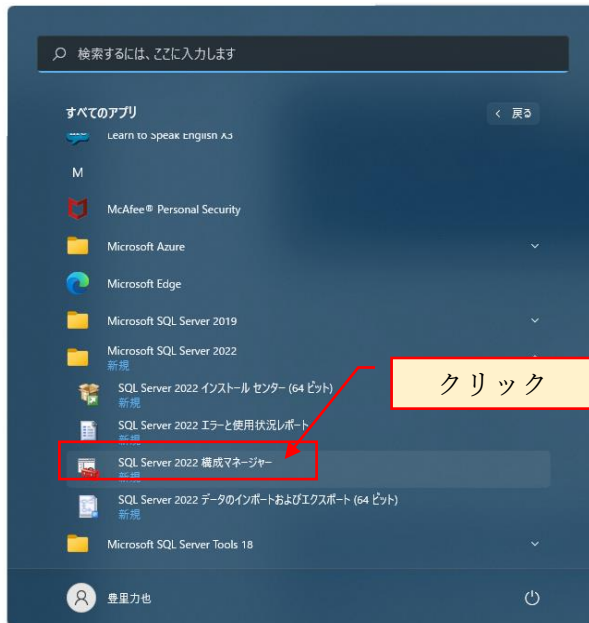


上記で TCP1433 ポートと UDP1434 ポートの解放は完了です。
Windows ファイアウォールの設定画面を終了します。

4. TCP/IP を有効にする

SQL Server2022 構成マネージャを起動して、TCP/IP を有効化します。
SQL Server2022 構成マネージャは、スタートメニューから起動します。

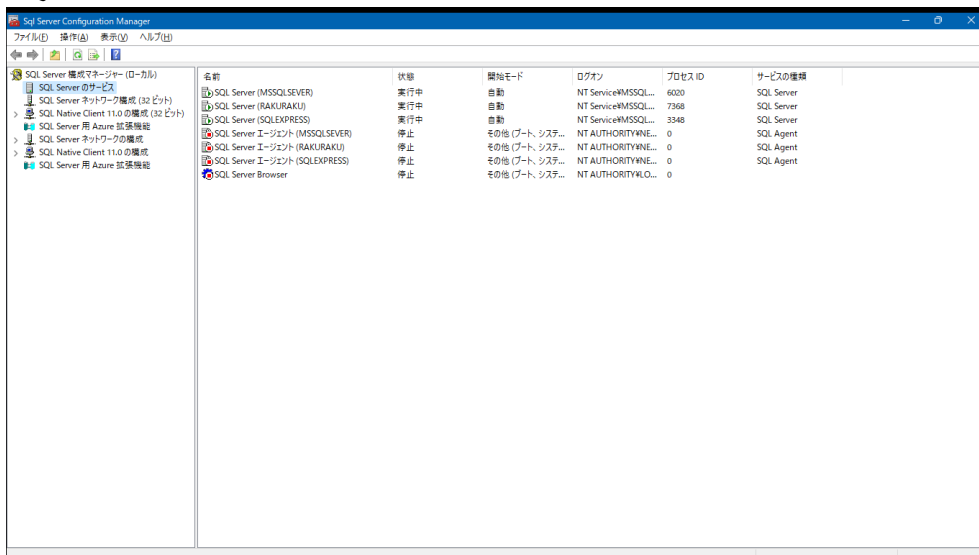
以下、TCP/IP を有効化する手順を示します。



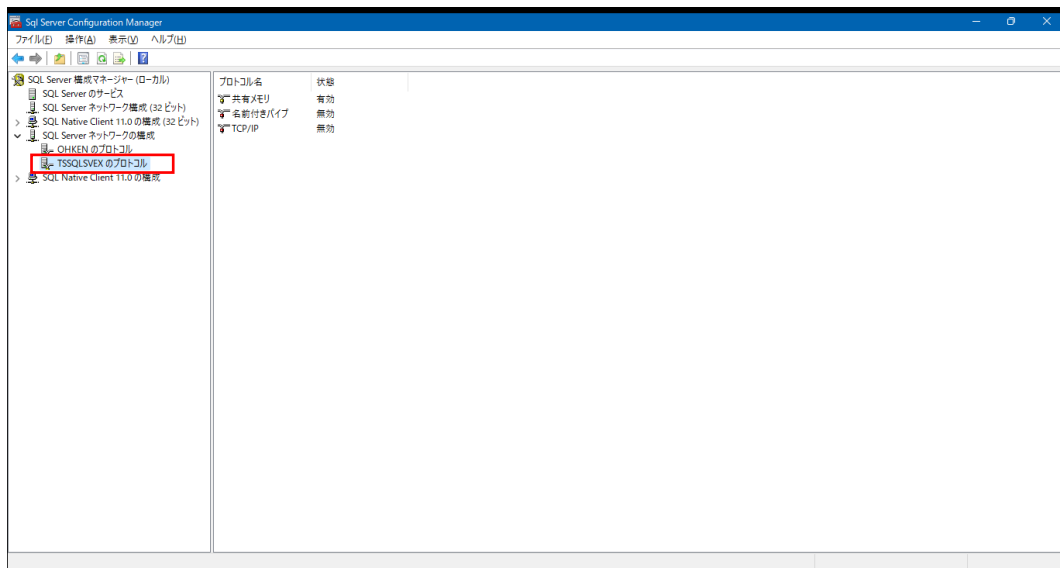
スタートメニューに SQL Server 2022 構成マネージャが表示されない時は、スタートファイル名を指定して実行の検索ボックスに SQLServerManager16.msc と入力すると構成マネージャが起動されます。

ユーザアカウント制御の警告メッセージ「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示されるので「はい」を応答します。

SQL Server 2022 構成マネージャが起動されます。

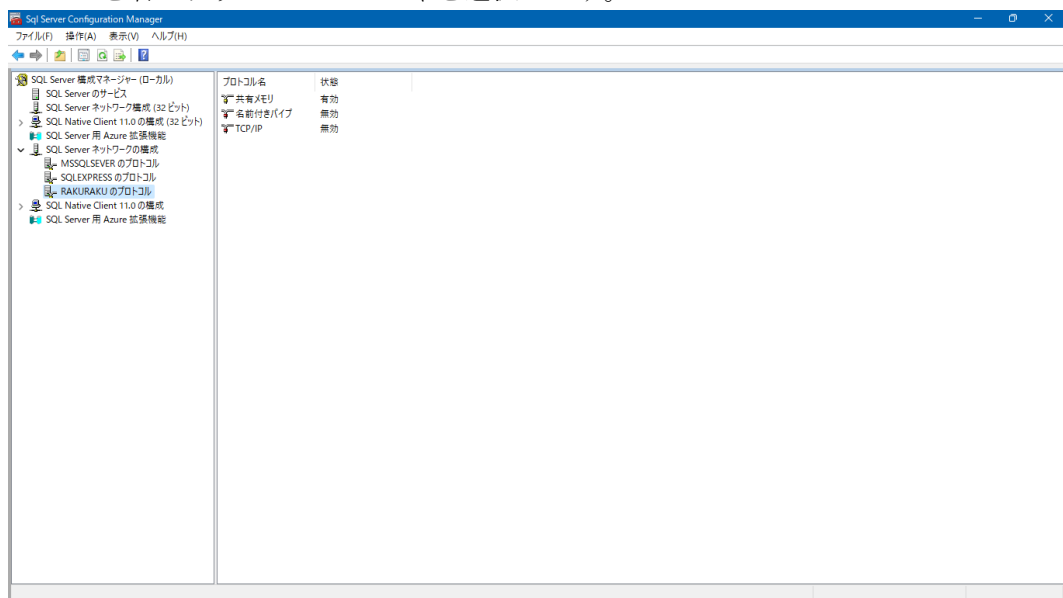


SQL Server ネットワークの構成を展開し、表示される SQLEXPRESS のプロトコルを選択します。

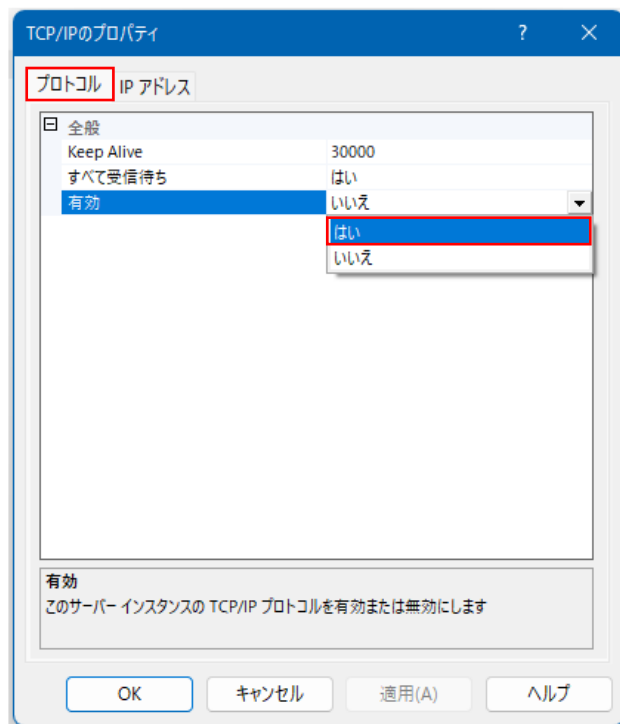


TCP/IP が無効となっている事を確認します。

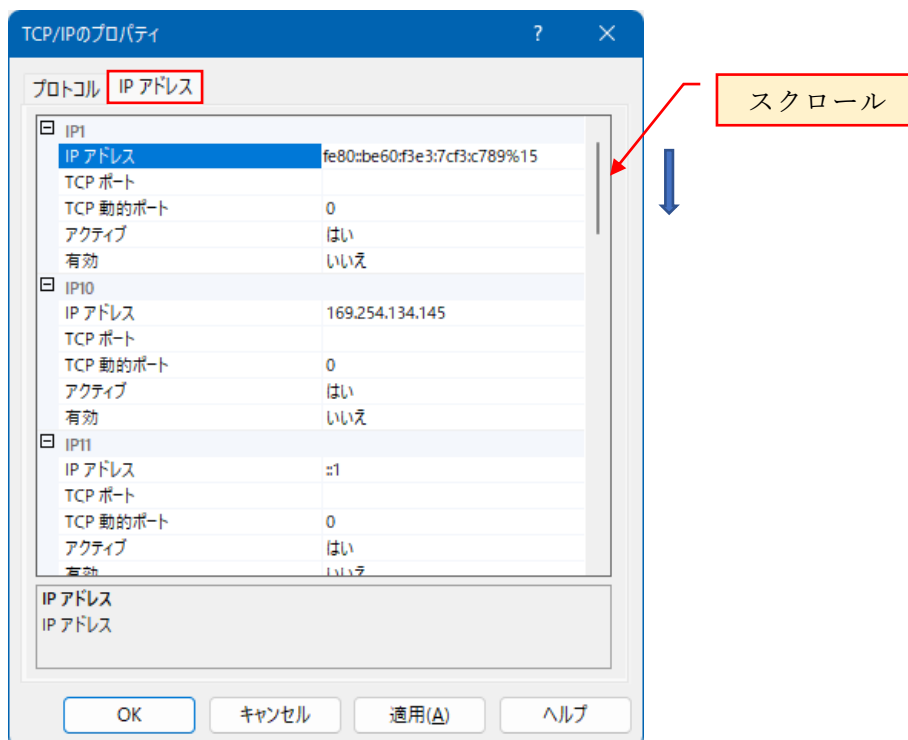
TCP/IP を右クリックしプロパティを選択します。



TCP/IP のプロパティでプロトコルタブの有効から「はい」を選択します。

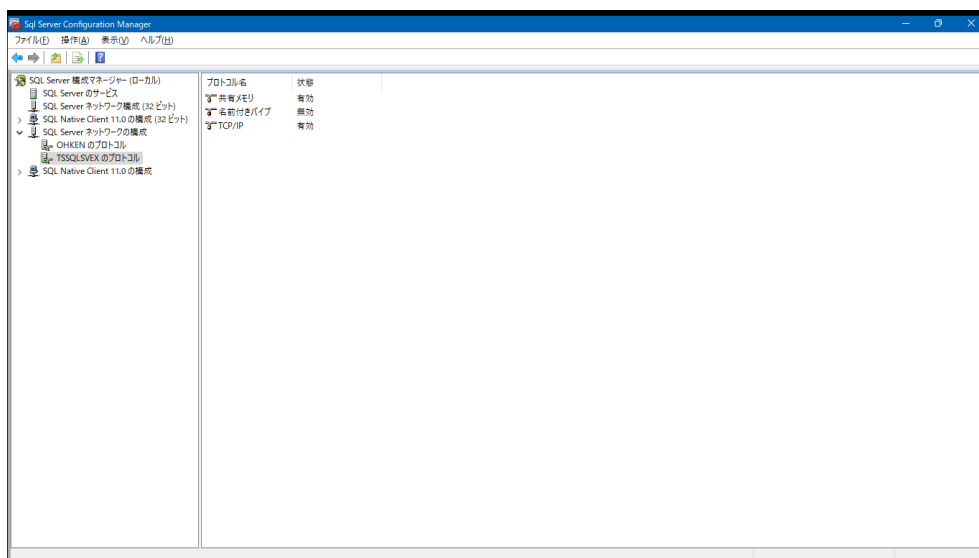
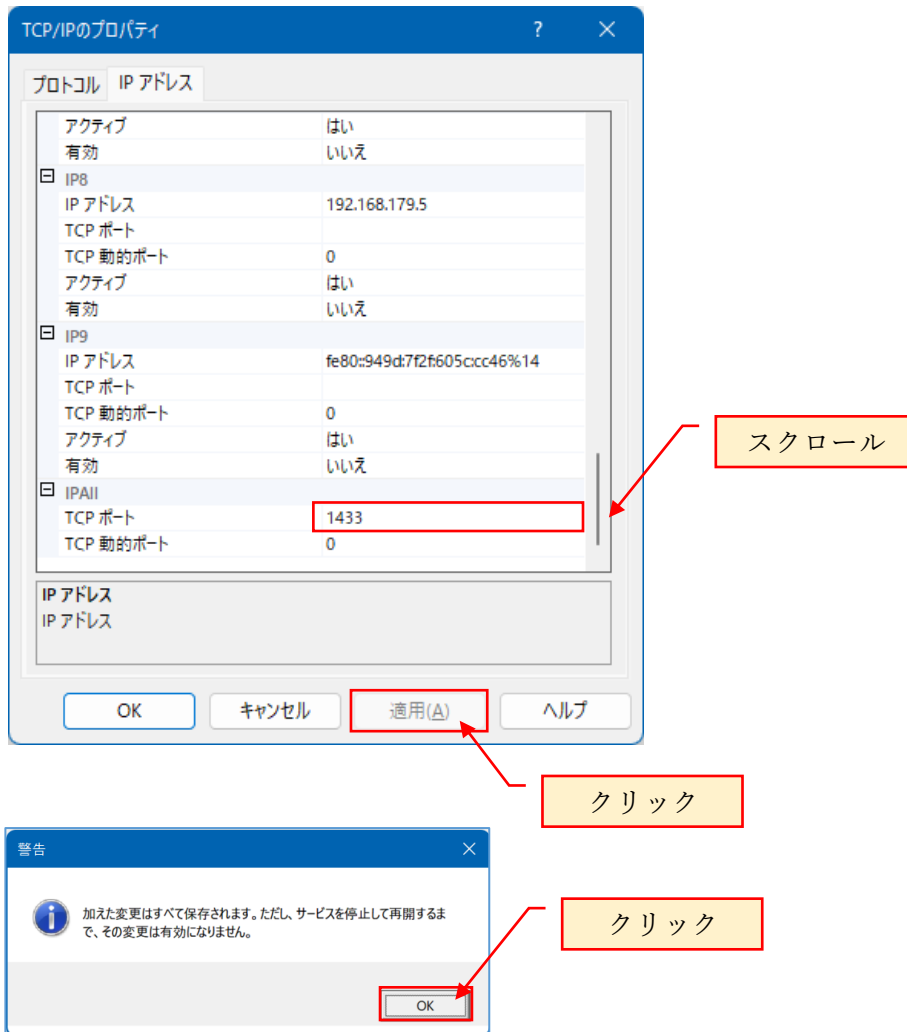


TCP/IP プロパティの IP アドレスタブを選択します。



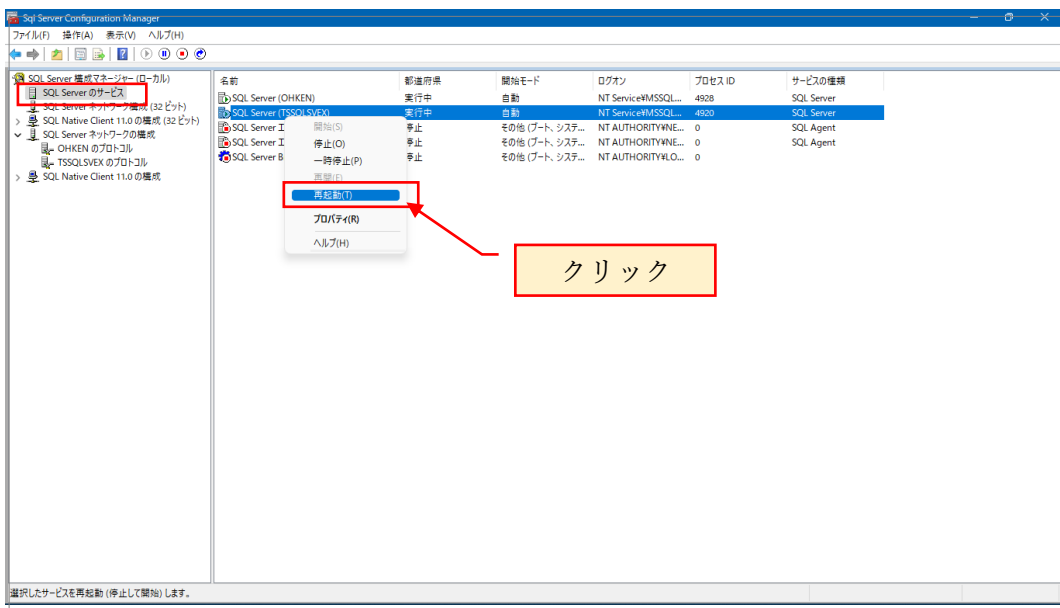
TCP/IP プロパティの IP アドレスタブにある IPALL の TCP ポートに **1433** を指定します。

注意：既に別のインスタンスがインストールされていて、かつ、TCP ポートに 1433 が設定されていると、SQL Server 再起動時にエラーが表示されます。その場合の対処方法は、再起動時のエラーの項を参照願います。



SQL Server を下記手順で再起動します。

SQL Server のサービスを選択し、SQLEXPRESS を選択して右クリックして表示される「再起動」をクリックします。



自動で切り替わります。

上記で、SQL Server が再起動されます。

以上で、TCP/IP の有効化が完了です。

SQL Server 構成マネージャーを終了します。

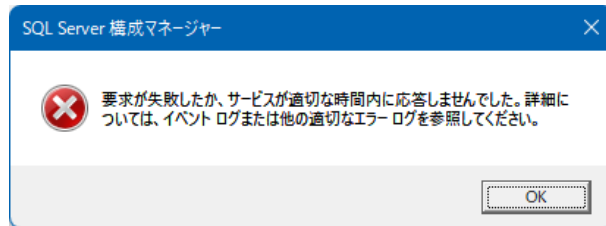
参考：

TCP/IP の有効化が無効のままの場合、SQLServer の接続でインスタンス名を SQLEXPRESS を指定した場合、TCP ポート 1433 を指定しての接続でエラーとなります。

再起動時のエラー対処：

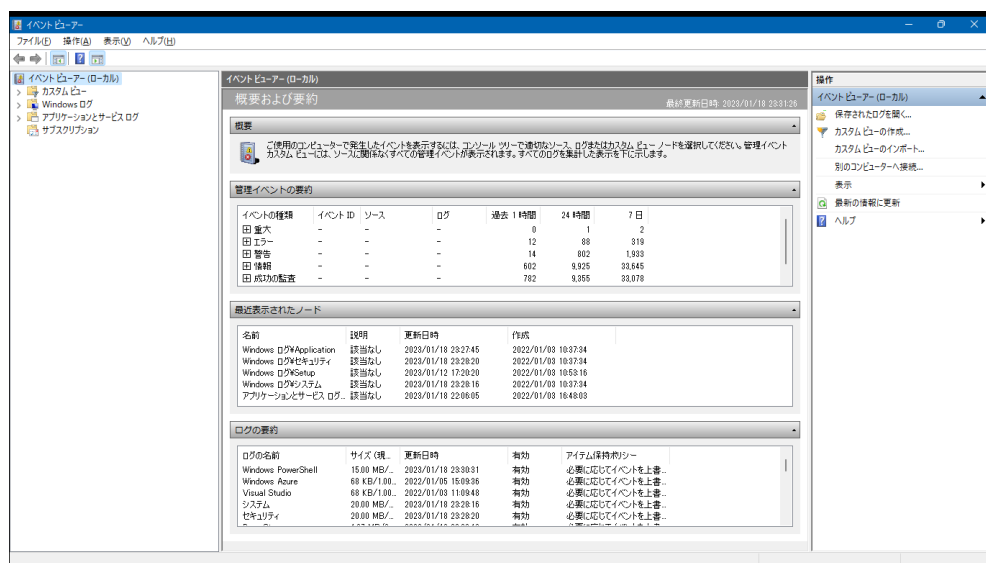
インスタンスの再起動時にエラーが出ていない場合は、この項は Skip します。

SQL Server 構成マネージャで、SQLEXPRESS のインスタンスを再起動した時にエラーが表示された場合の対処

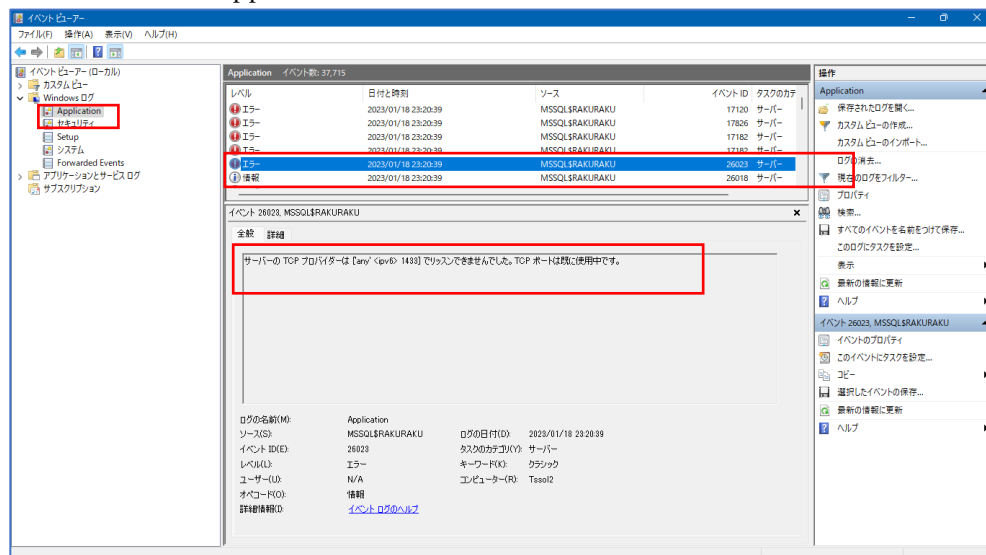


イベントビューアーを起動して原因を調査します。

イベントビューアーの起動は、すべてのプログラムから Windows ツールにあります。



Windows ログの Application を展開します。

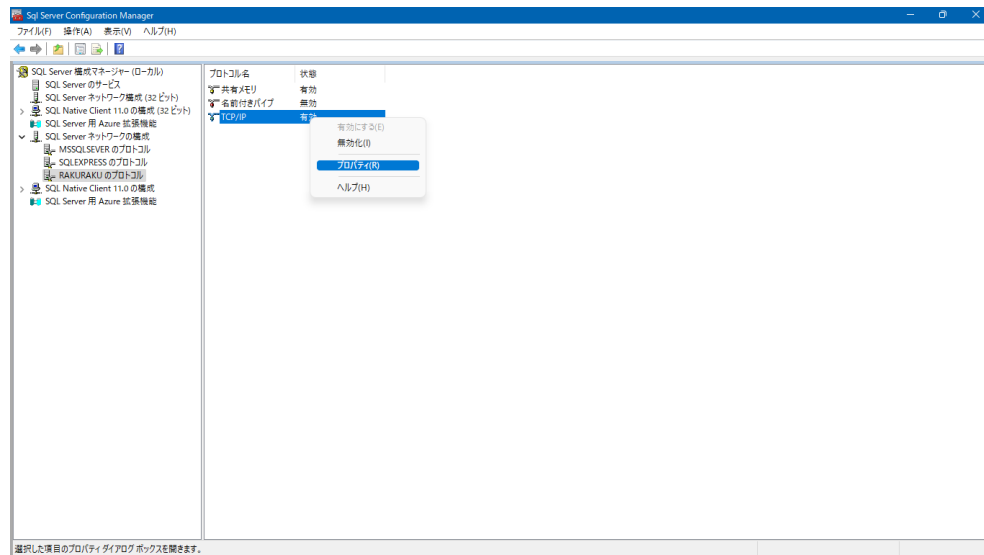


エラーとなった最初のトリガを選択し、エラー内容を確認します。

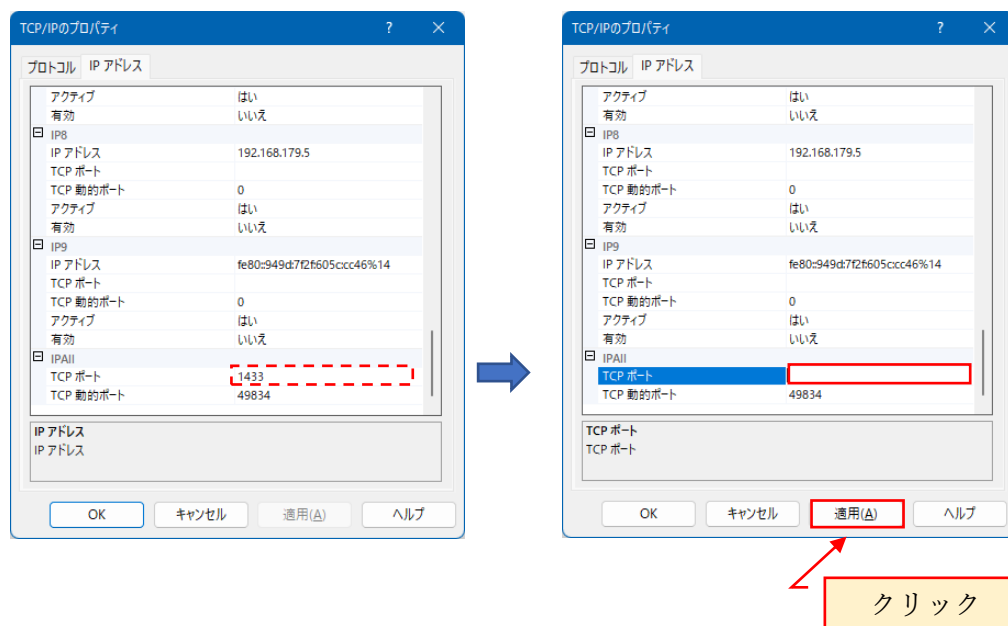
エラーメッセージの例

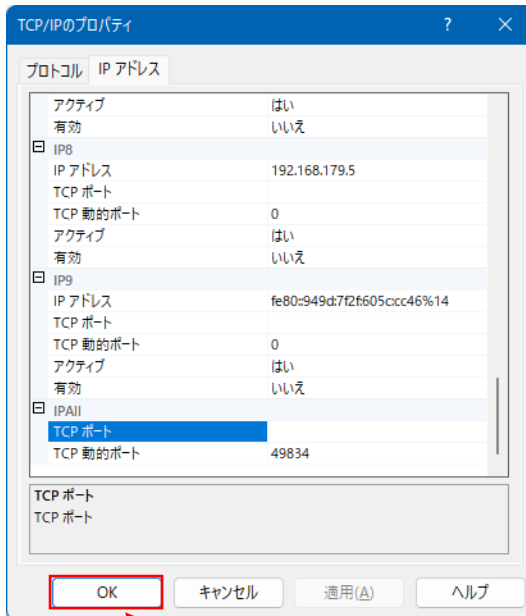
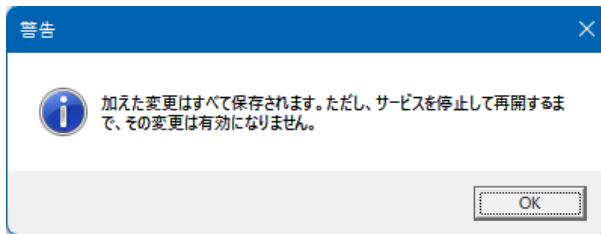
サーバーの TCP プロバイダーは ['any' <ipv6> 1433] でリッスンできませんでした。
TCP ポートは既に使用中です。

対処:構成マネージャで、インスタンス名が SQLEXPRESS で TCP/IP のポートが 1433
で指定している箇所を削除します。



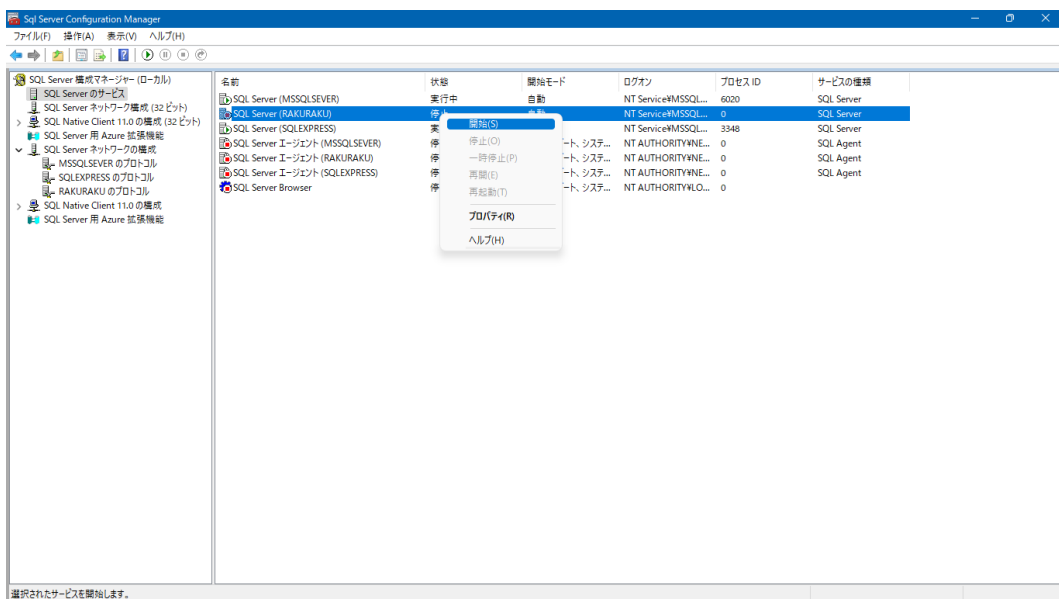
TCP ポートの変更箇所





クリック

再起動してエラーが表示されない事を確認します。



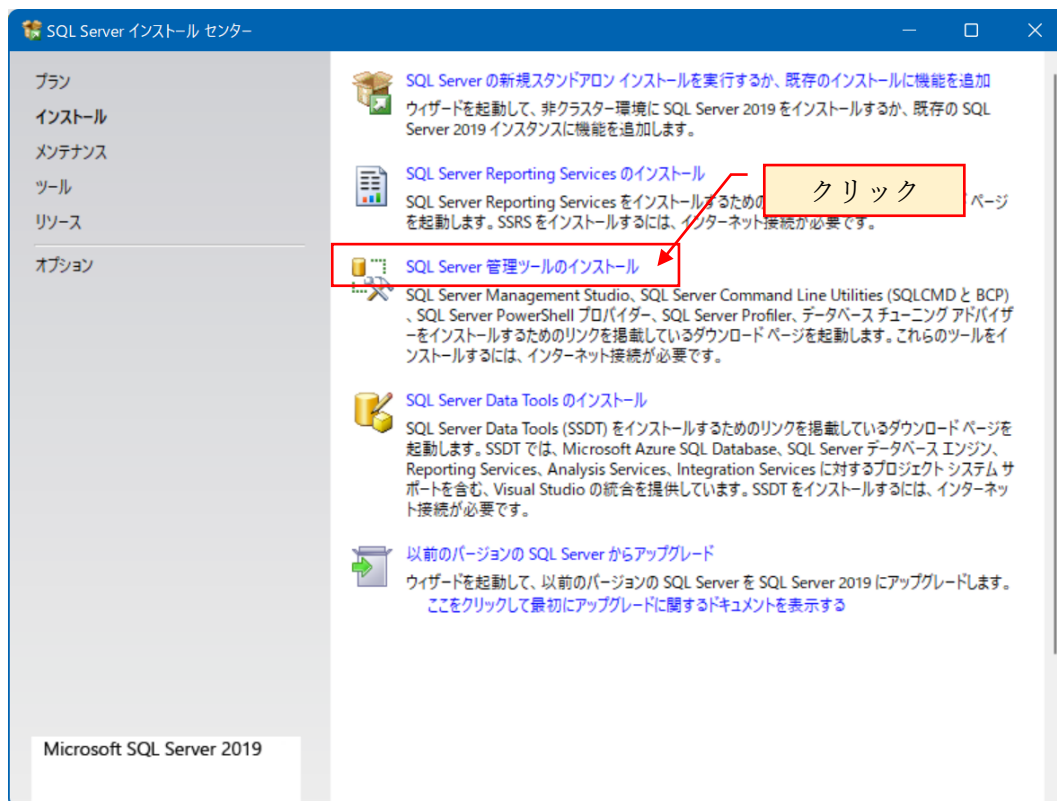
5. SQL Server Management Studio をインストールする

SQL Server 管理マネージャの Microsoft SQL Server Management Studio をインストールします。

SQL Server インストールメディアのダウンロード先は、標準では以下の通りです。

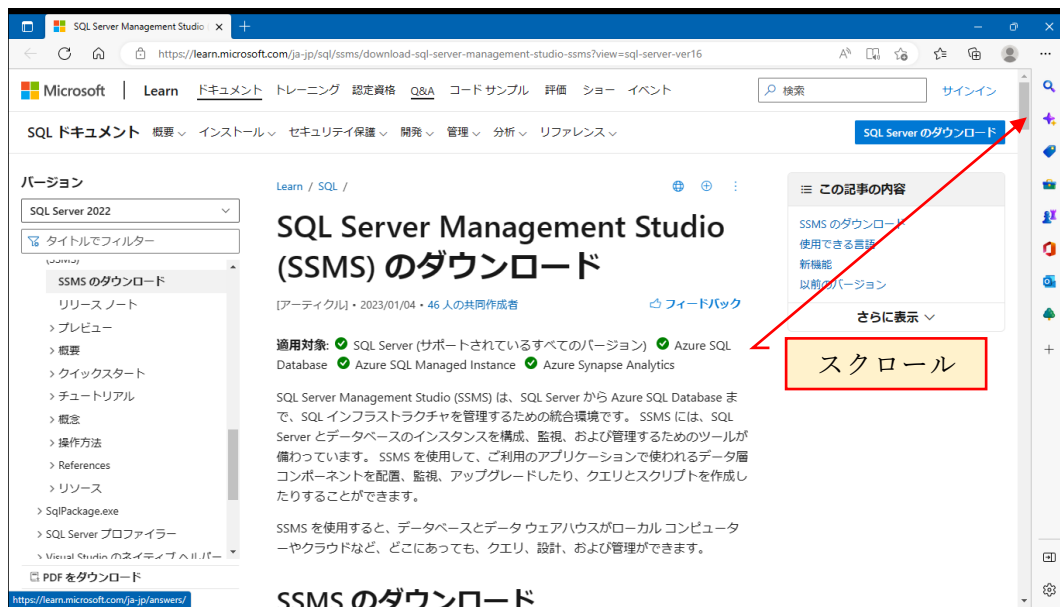
C:\¥SQL2022¥ExpressAdv_JPN

上記のフォルダ内にある SETUP.EXE を実行すると、SQL Server のインストールセンターが開かれます。

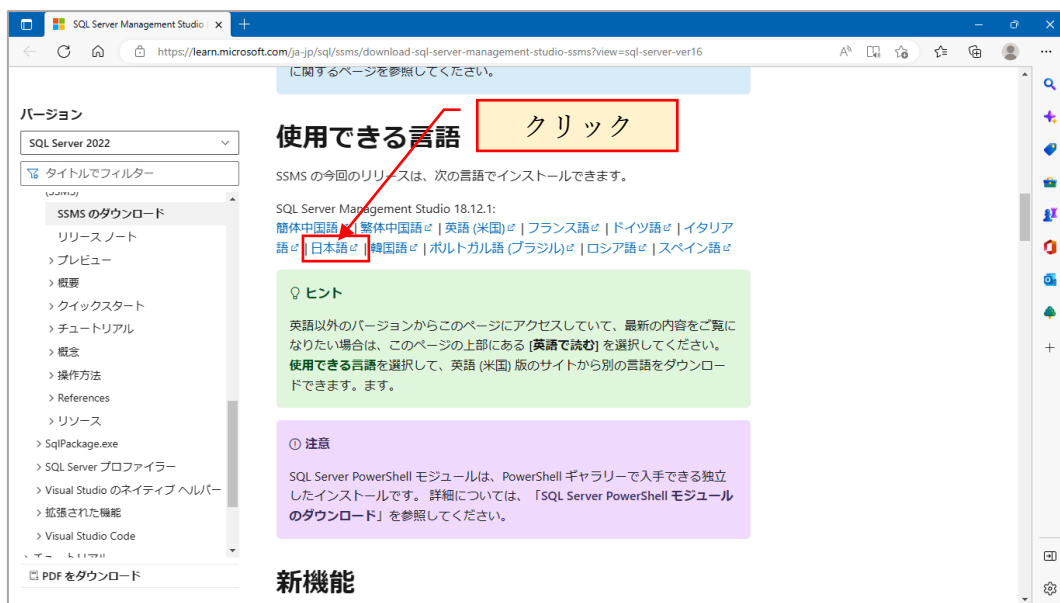


上記以外に、下記のサイトからも SQL Server Management Studio のインストーラをダウンロードできます。

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms?redirectedfrom=MSDN&view=sql-server-ver16>

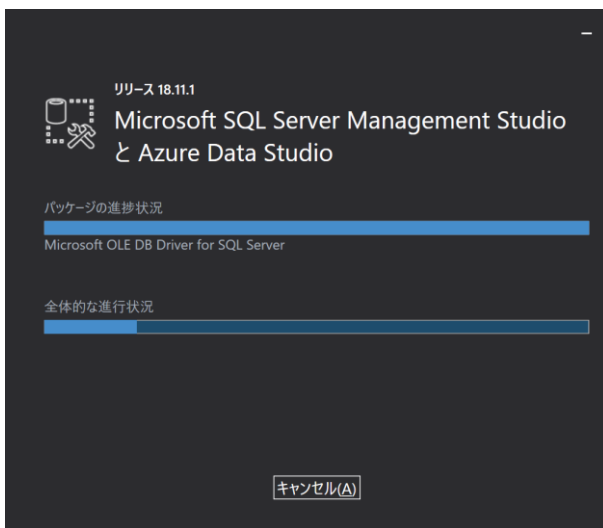
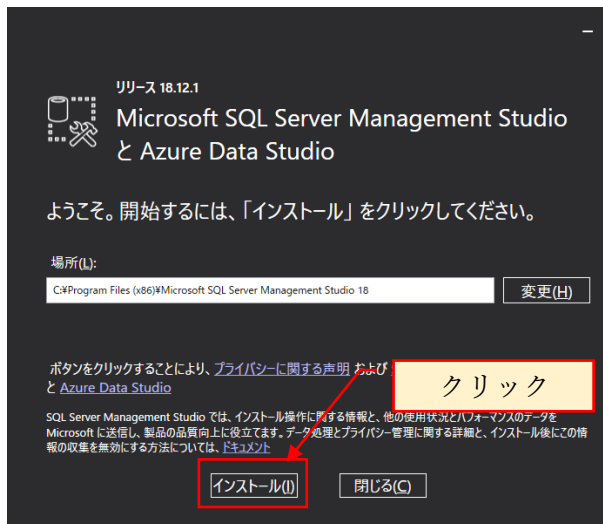


上記の画面を下方にスクロールし、「使用できる言語」と表示されている項目の「日本語」をクリックすると、SQL Server Management Studio の日本語版をダウンロードします。



ダウンロードが完了すると、ダウンロードフォルダに SSMS-Setup-JPN.exe が格納されています。

SSMS-Setup-JPN.exe を実行すると、SQL Server Management Studio のインストールが開始されます。



インストールが完了すると、下記の画面が表示されます。



SQL Server インストールセンターを閉じます。

6. SQL Server の設定

Microsoft SQL Server Management Studio 起動

起動方法は、スタートメニューの Microsoft SQL Server Tools 18※1 を展開し表示される Microsoft SQL Server Management Studio 18 をクリックして起動します。



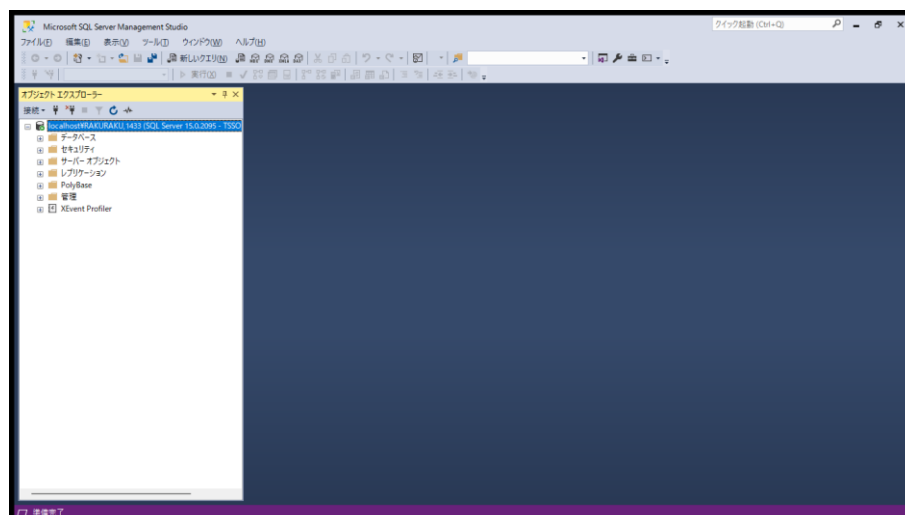
※1 導入時点のバージョンによって異なります。

6.1 Windows 認証でログインできるか確認します。

サーバ名：localhost¥SQLEXPRESS,1433

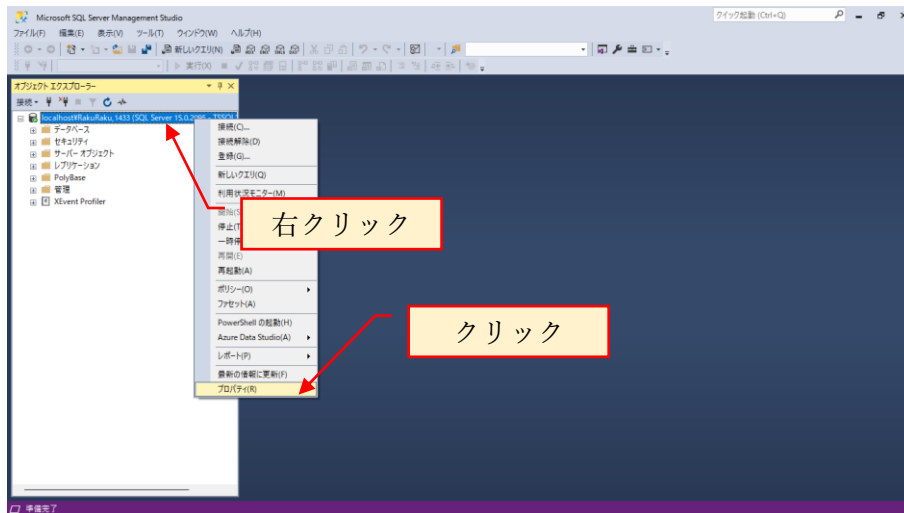


正常に起動される事を確認します。

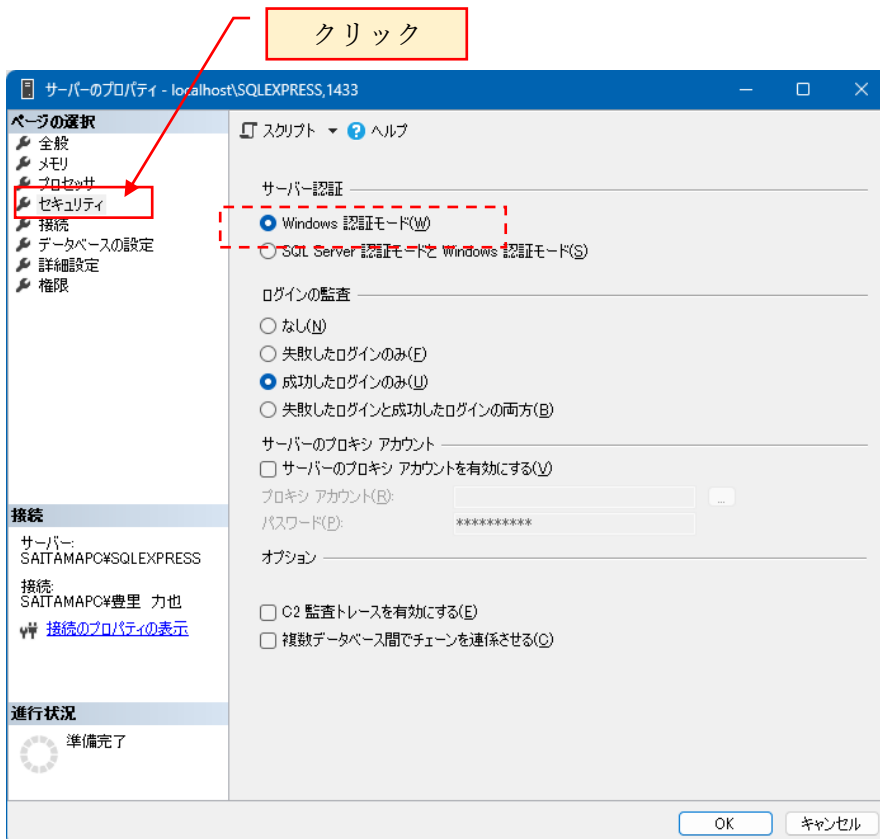


6.2 サーバの認証方法を Windows 認証から SQL 認証に変更する

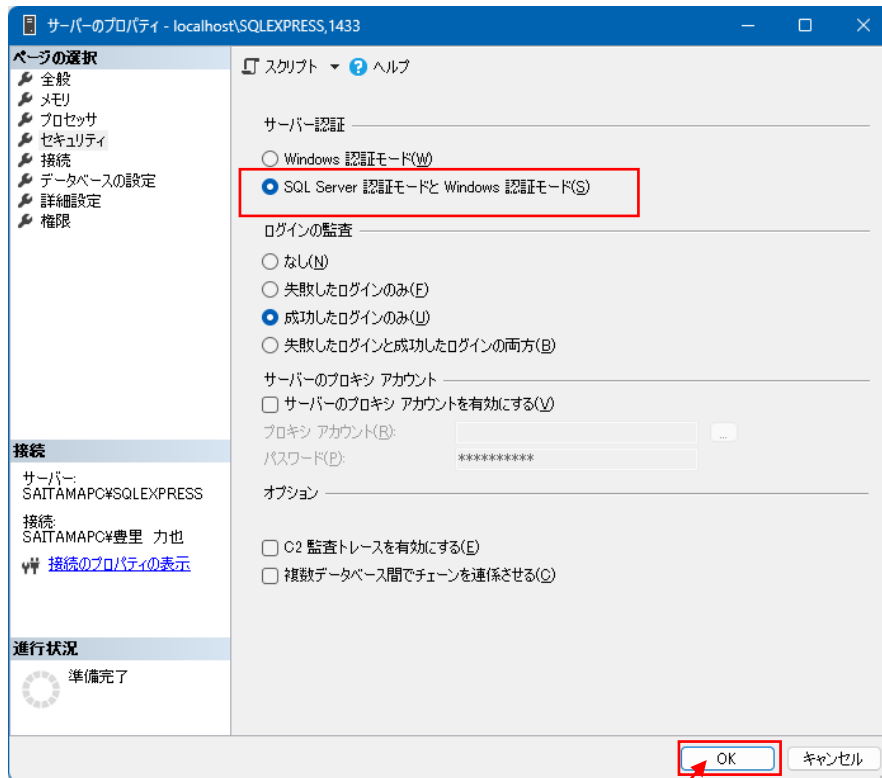
オブジェクトエクスプローラの localhost\SQLEXPRESS,1433(SQL Server を選択し右クリック



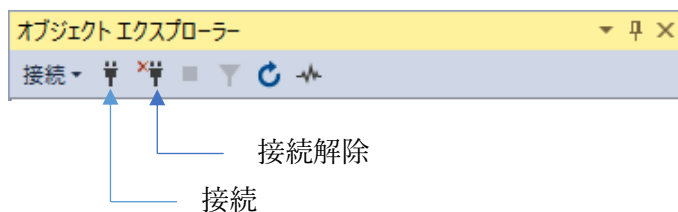
プロパティを選択し、ページの選択でセキュリティをクリック



Windows 認証を SQL Server 認証モードと Windows 認証モードに選択し直します。



クリック



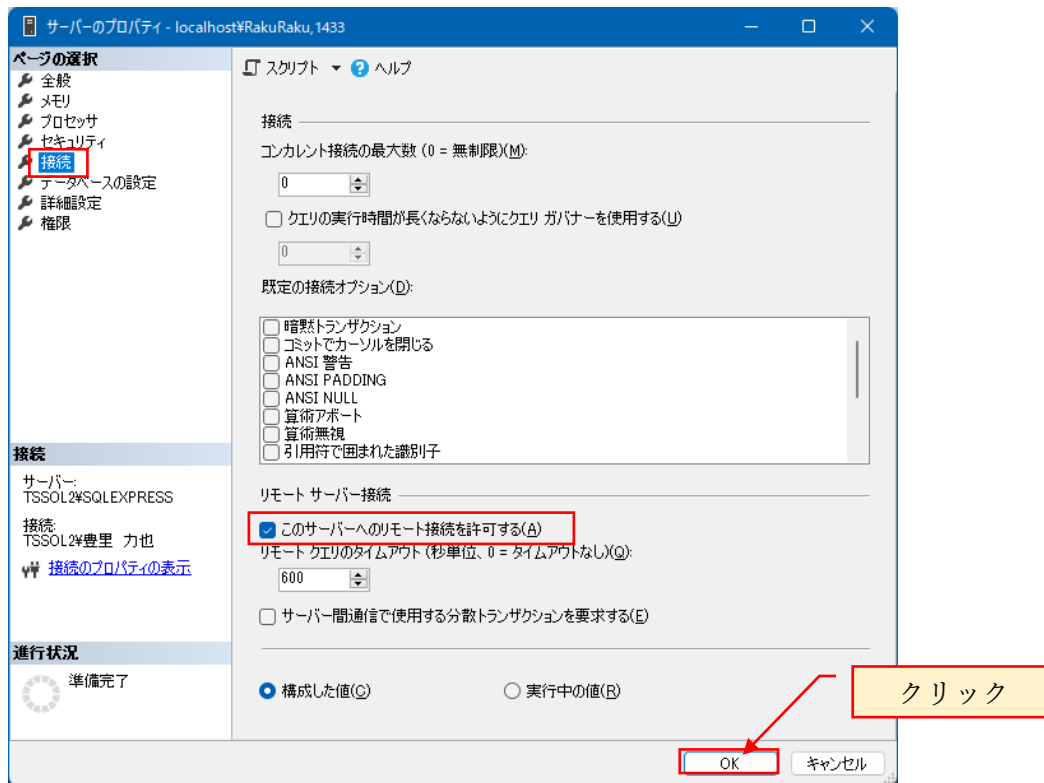
切断をクリックすると、現在の接続（Windows 認証）を切断します。
SQL Server Management Studio を終了し、一旦、PC を再起動します。

再度、SQL Server Management Studio を起動後、Windows 認証でログインします。
オブジェクトエクスプローラの localhost\SQLEXPRESS,1433(SQL Server を選択し右
クリック

プロパティを選択し、ページの選択で接続をクリックします。

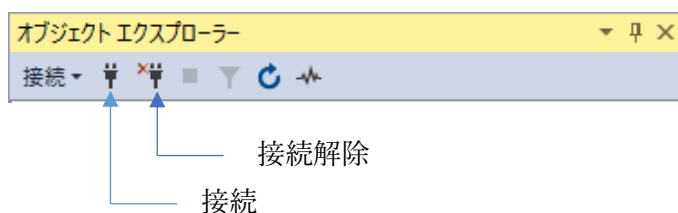
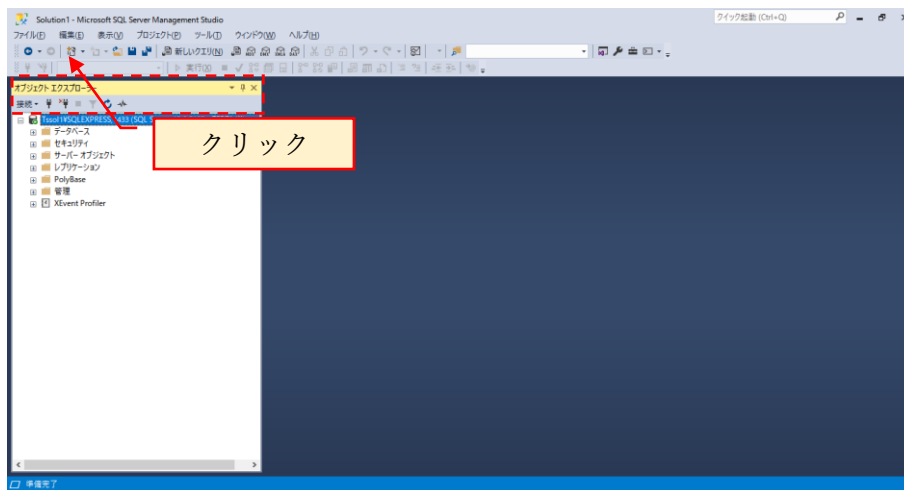
6.3 リモート接続が許可されている事を確認します。

ページの選択で「接続」を選択し、このサーバへのリモート接続を許可するにチェックが入っていない場合はチェックを入れて[OK]をクリックします。



SQL Server Management Studio で SQL Server の接続を切断します。

切断方法は、接続解除をクリックします。



切断をクリックすると、現在の接続 (Windows 認証) を切断します。

次項で、SQL Server 認証で接続の確認を行なうため、「接続解除」をクリックします。

6.4 新しいログイン名の作成

らくらくドキュメントサーチのアプリケーションで SQL Server にログインするためのアカウントを作成します。

Windows 認証でログインし直します。



クリック

新しいログイン名を作成します。

作成するアカウントは、DocSearch

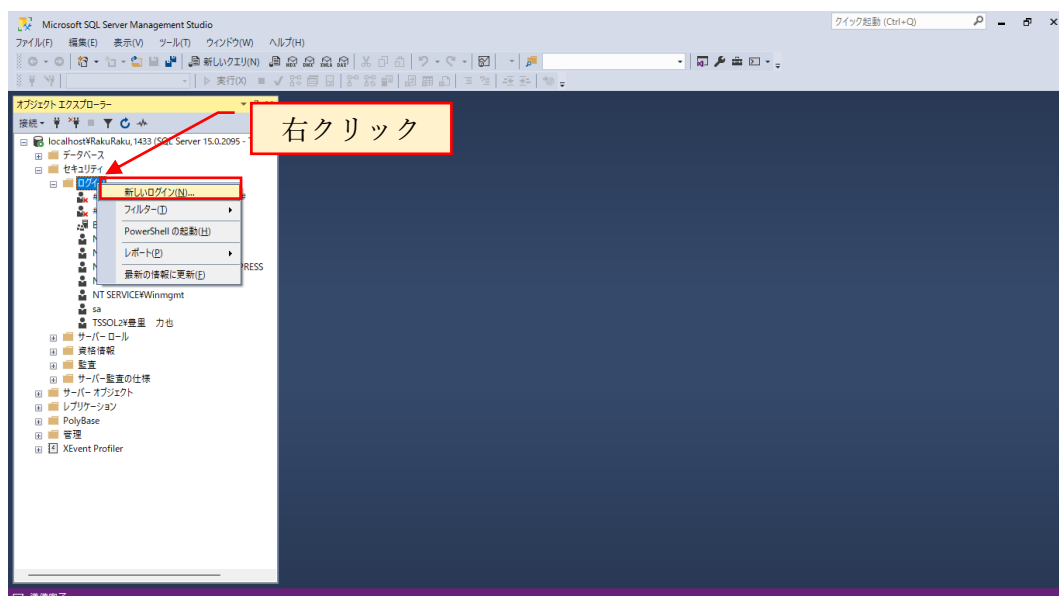
SQL Server 認証

ログイン名は DocSearch

パスワードは DocSearch!admin

ここで作成するアカウント「DocSearch」は、らくらくドキュメントサーチのプログラムがデータベースにアクセスするためのアカウントとなります。

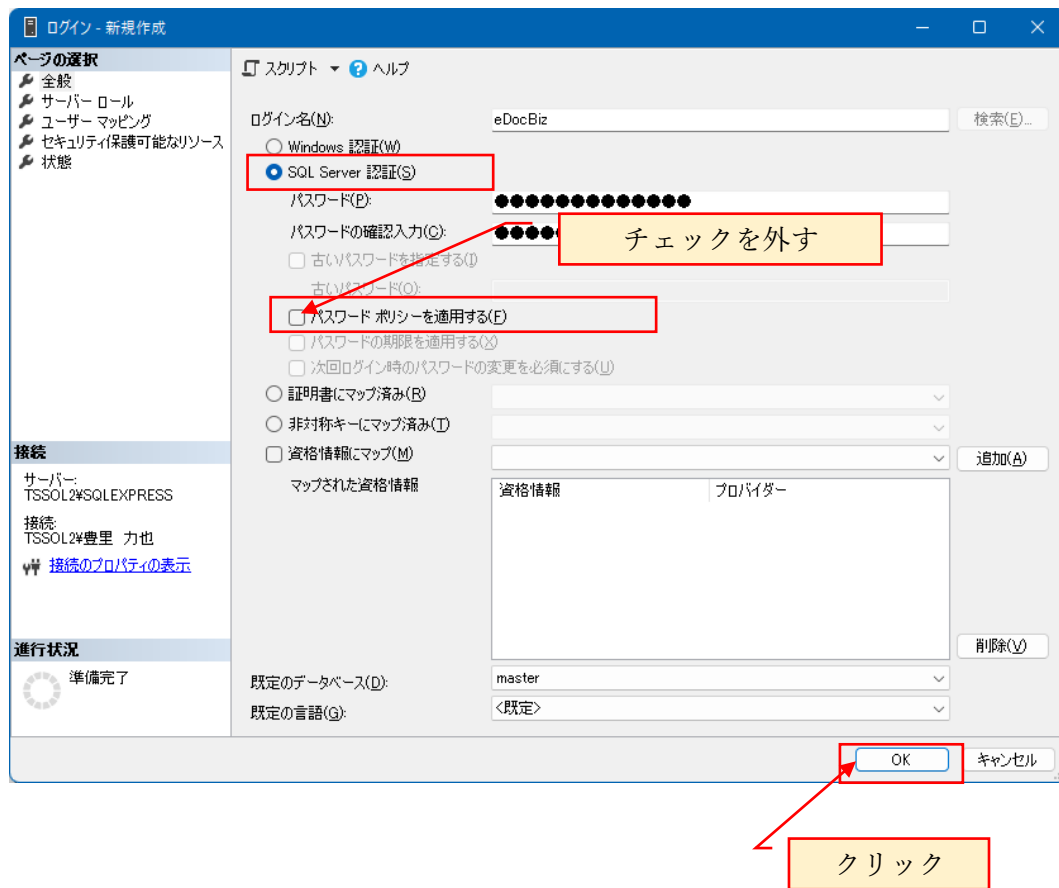
下記の画面が表示されたら、オブジェクトエクスプローラの「セキュリティ」を+をクリックして展開し、表示される「ログイン」を選択して右クリックで表示される「新しいログイン」を選択します。



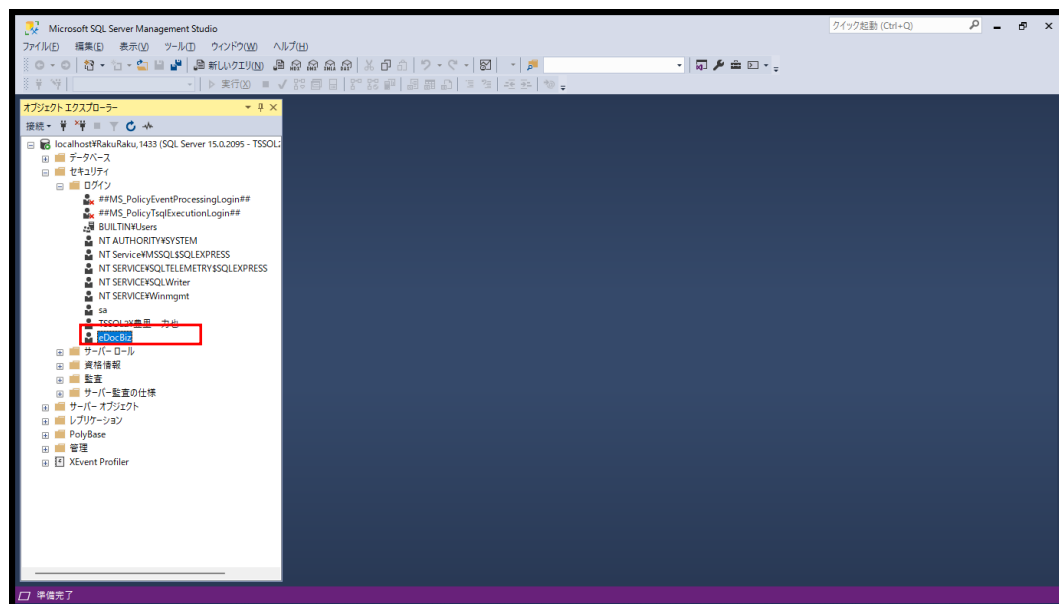
ログイン名：DocSearch

SQL Server 認証を選択

パスワード：DocSearch!admin

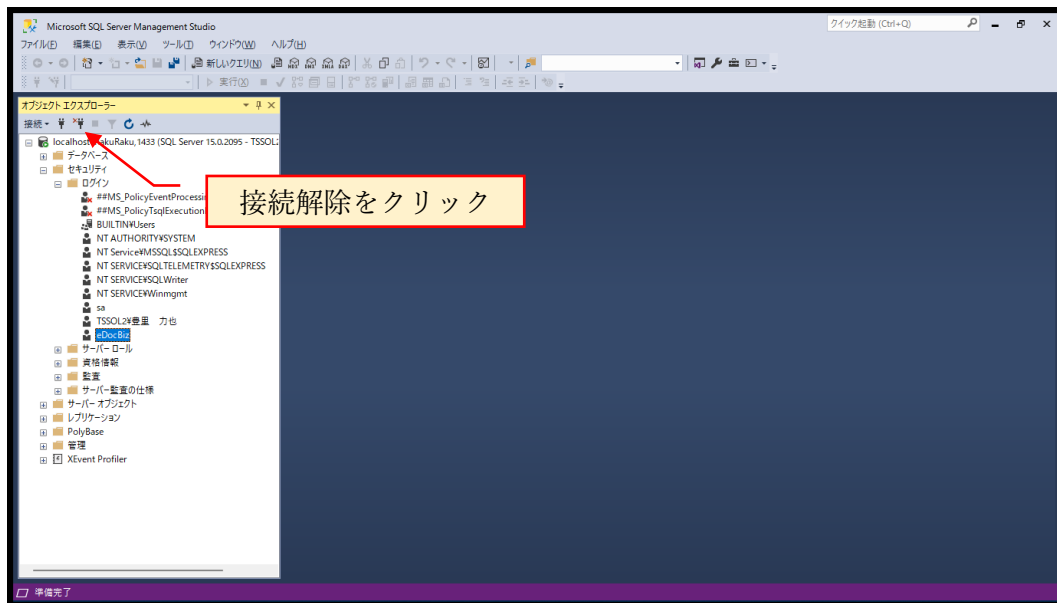


上記を入力したら「OK」をクリックします。

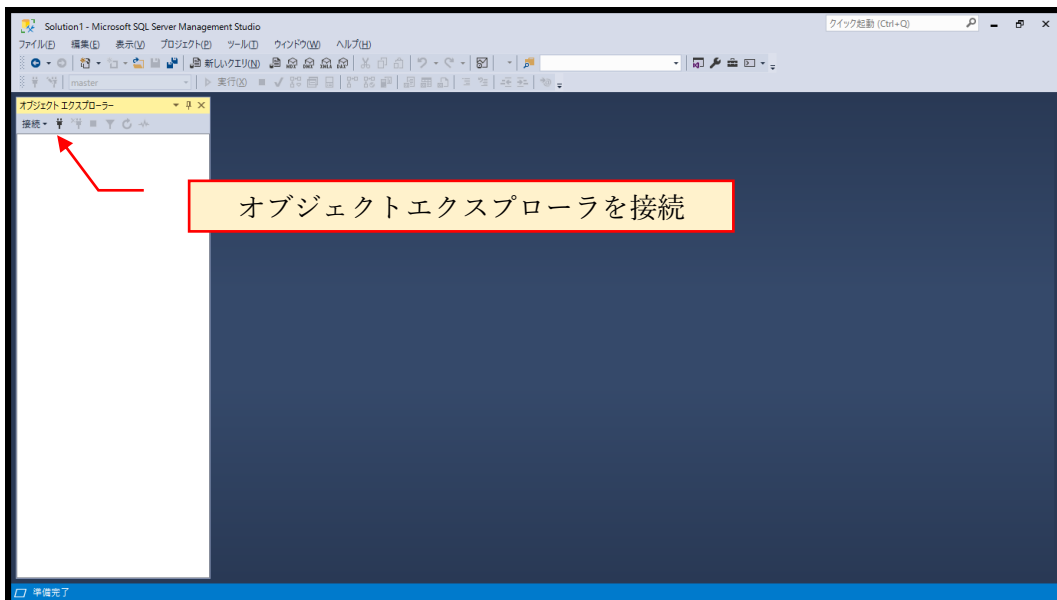


ログインに作成した DocSearch が存在していることを確認します。

前項で作成した DocSearch でログインできるか確認のため、現在の Windows 認証から SQL Server 認証に切替える必要があります。そのため、現在の接続を解除します。



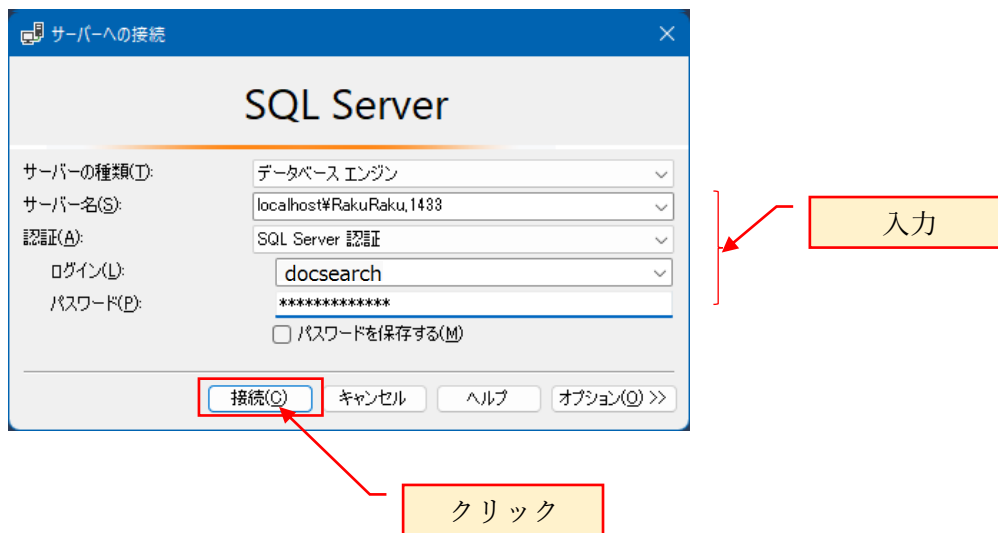
SQL 認証でログインできるか確認します。



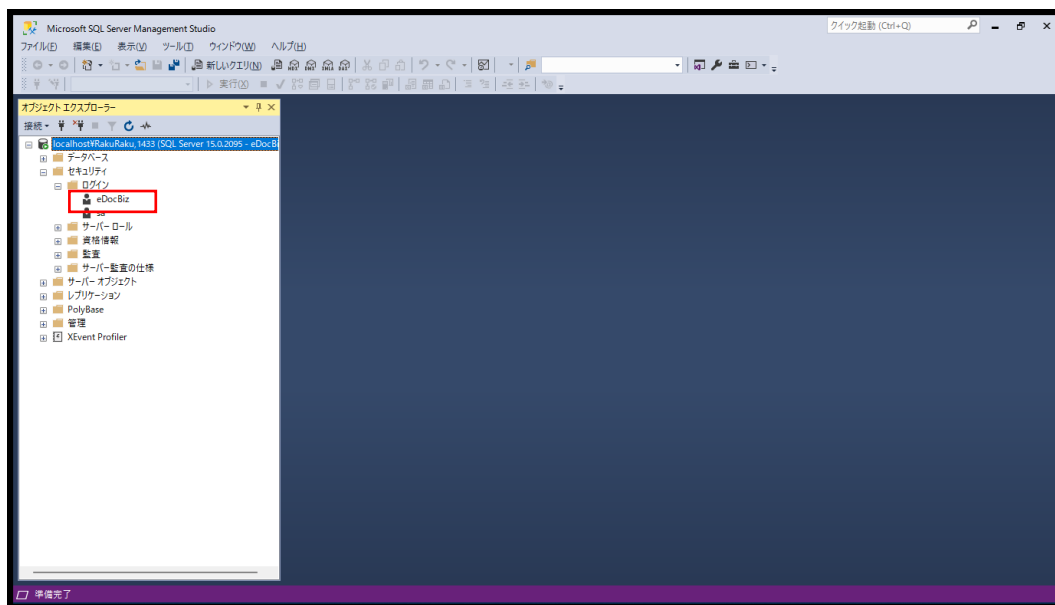
サーバ名： **ホスト名**¥SQLEXPRESS,1433

ホスト名は、SQL Server が動作する PC のコンピュータ名を入力します。

ログイン：DocSearch、パスワード：DocSearch!admin を入力し「接続」をクリック

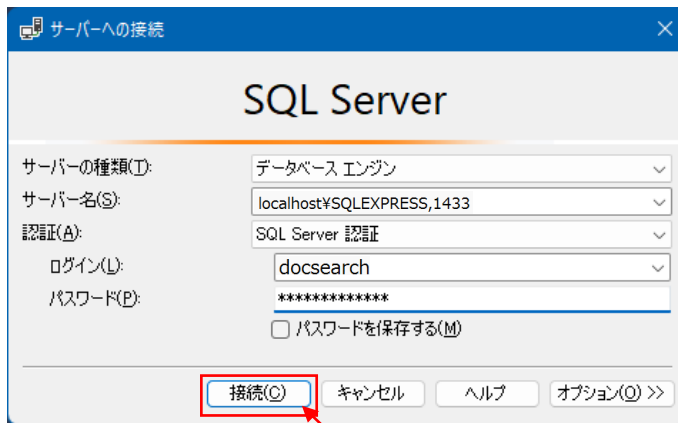


セキュリティを展開し、ログインの中に DocSearch が存在している事を確認します。



ログインに DocSearch が存在していれば、正しく作成された事が確認できます。

6.5 ログインで、エラー 18456 でログインできない場合の対処



クリック

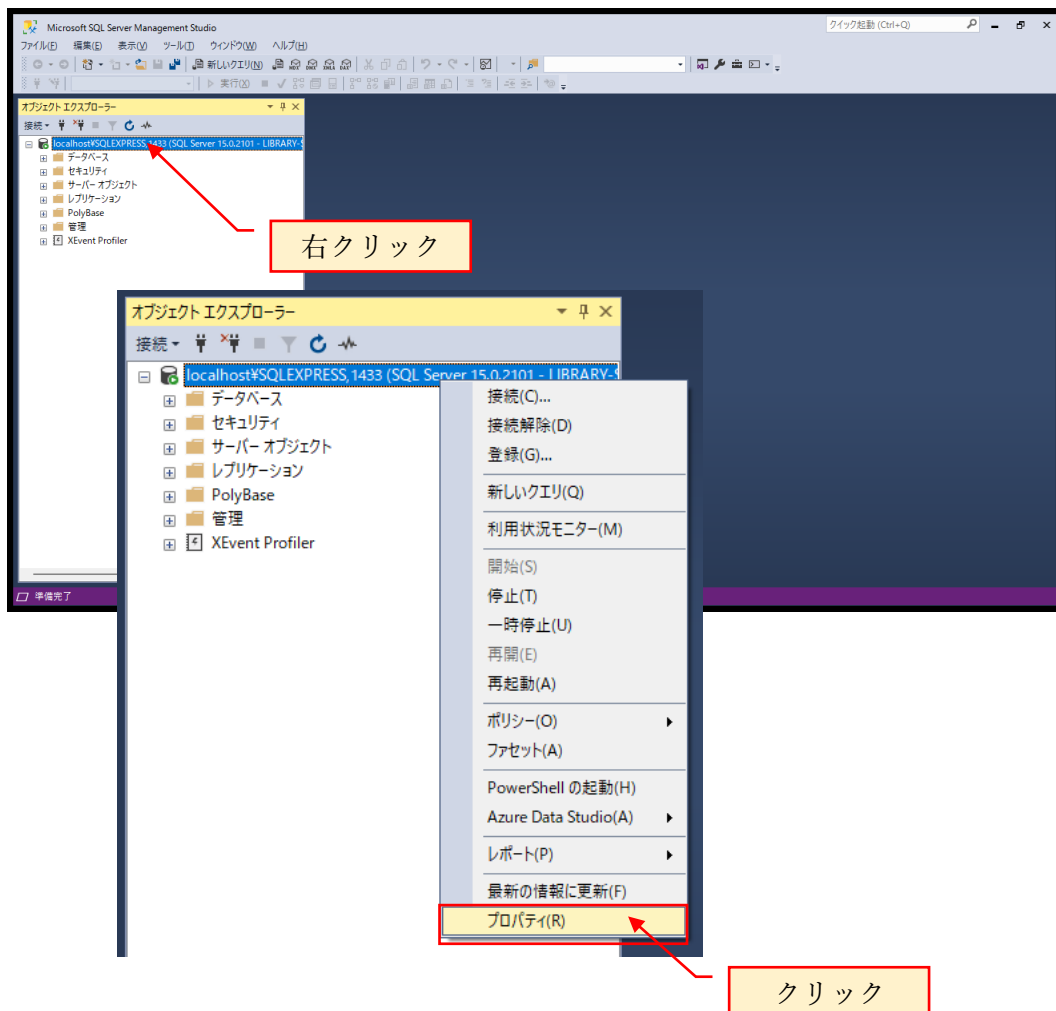
SQL 認証でログイン時、

ユーザ DocSearch はログインできませんでした。(Microsoft SQL Server エラー：18456)

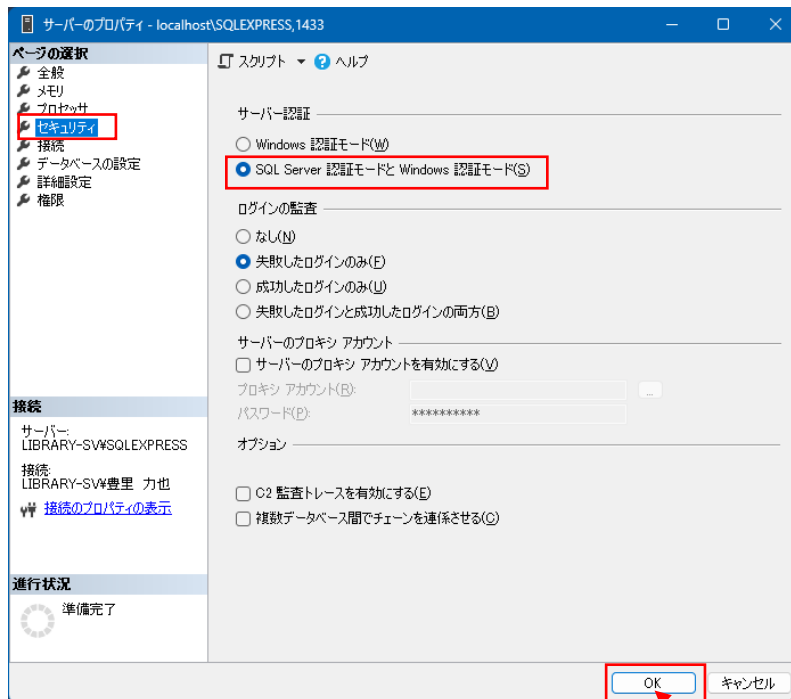
のエラーが表示された場合の原因と対処：

原因：サーバの認証方式が Windows 認証のままとなっていることが原因です。

対処：Windows 認証で接続します。

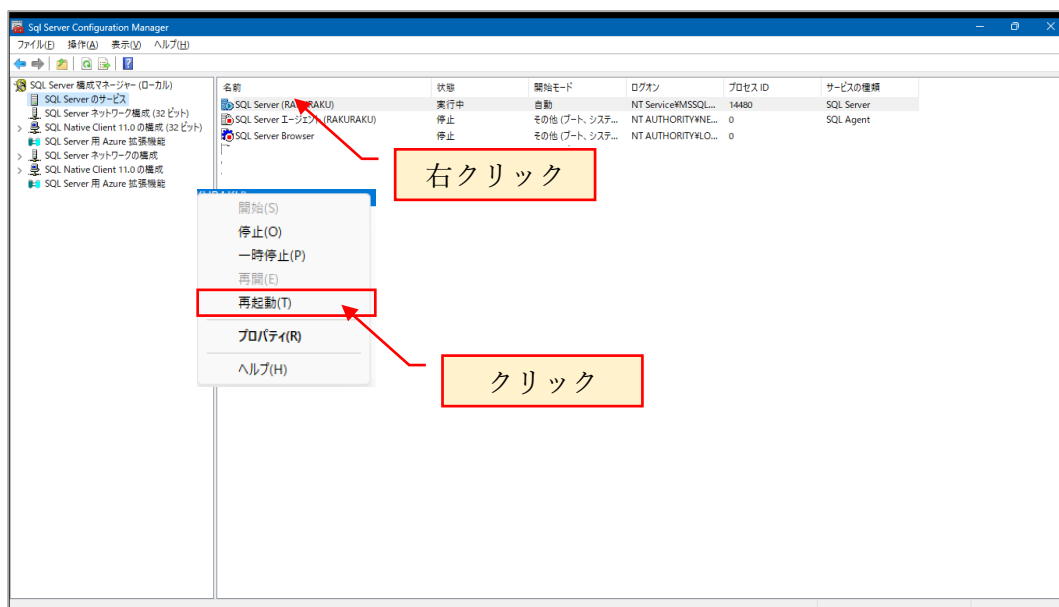


セキュリティのサーバ認証で、Windows 認証となっている場合
SQL Server 認証モードと Windows 認証モードの変更します。



クリック

SQL Server 構成マネージャを起動し SQLEXPRESS の再起動を行って反映します。



6.6 新しいデータベースの作成

Windows 認証でログインをし直してください。



作成するデータベースの情報：

データベース名：docsearchsqldb

物理パス：例として下記のパスで作成しますが、任意に指定できます。

D:\¥DocSearchdb¥docsearchsqldb.mdf

D:\¥DocSearchdb¥docsearchsqldb_log.ldf

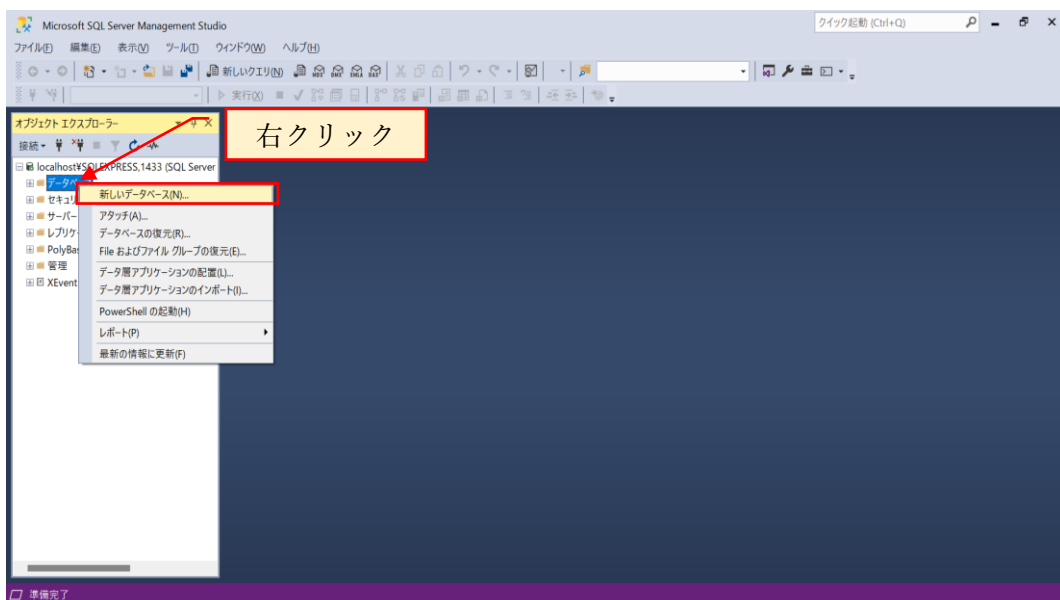
データベースの初期サイズ：例として下記に示しますが、任意に指定できます。

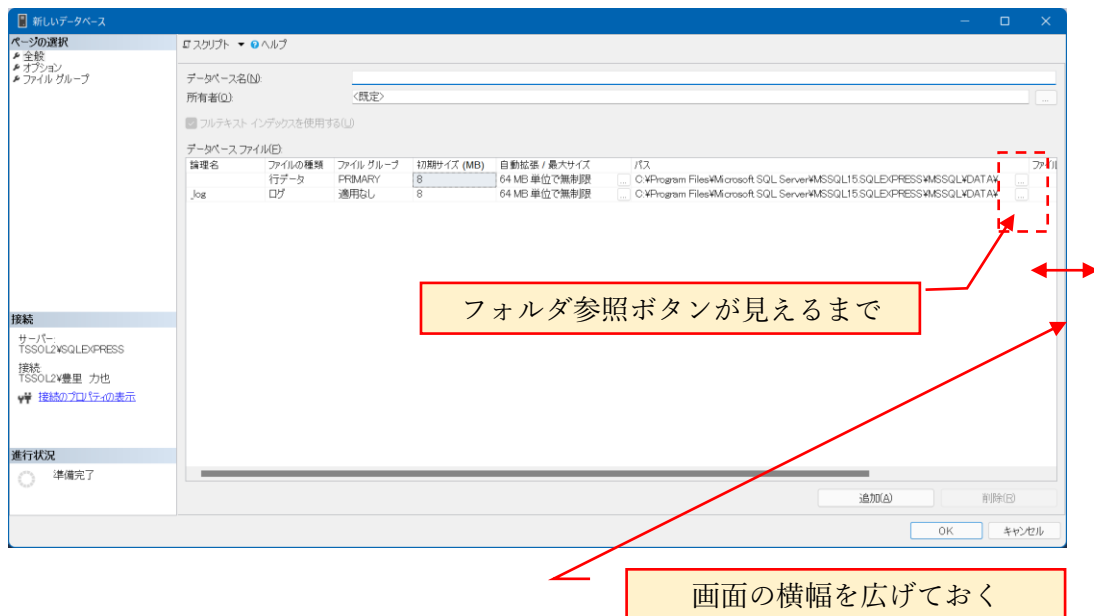
行データ：256MB 自動拡張：64MB 単位で無制限

ログ：64MB 自動拡張：64MB 単位で無制限

データベースを選択し、右クリックで表示される「新しいデータベース」を選択します。

下記の画面が表示されたら、オブジェクトエクスプローラのデータベースを選択し右クリックで表示される「新しいデータベース」を選択します。

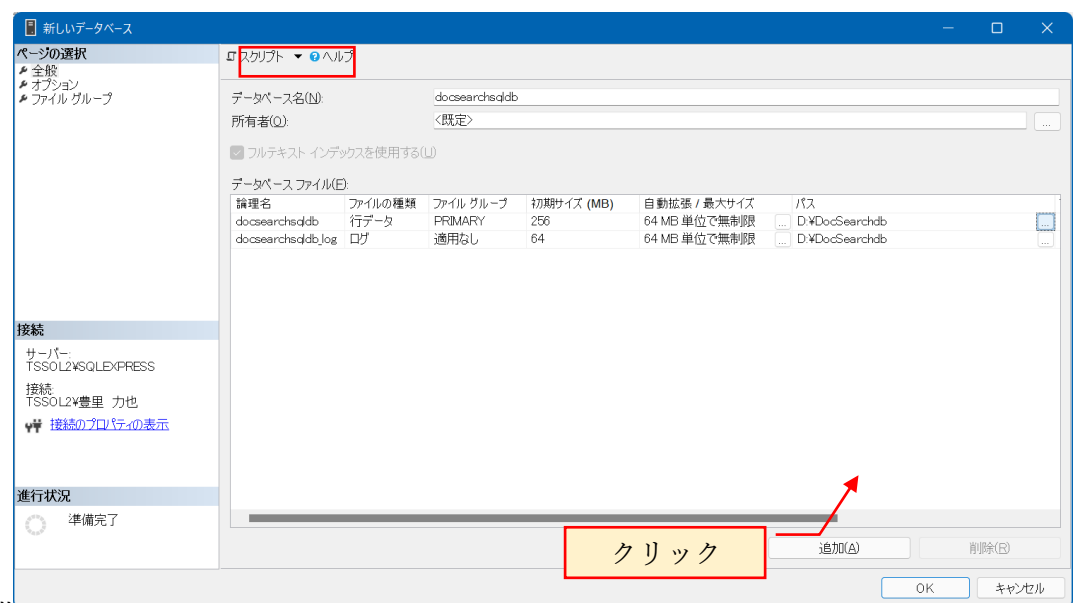




データベースを作成する場所は、D:\DocSearchdb のため、あらかじめデータベース格納先フォルダを作成します。

データベース名に docsearchsqldb を入力します。

データベース名(N):



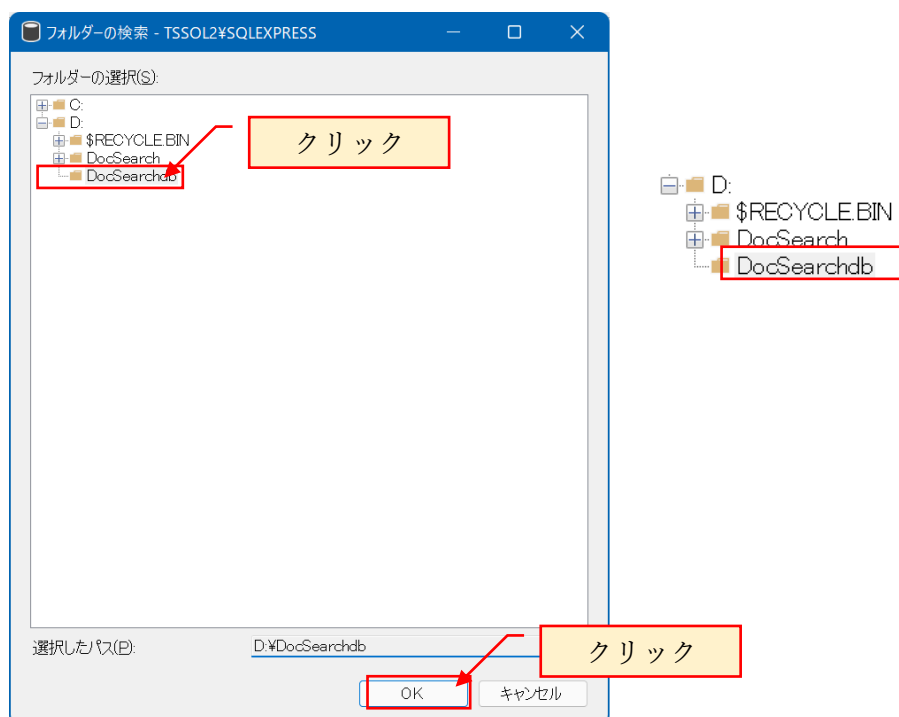
初期サイズを指定します。

論理名	ファイルの種類	ファイル グループ	初期サイズ (MB)	自動拡張 / 最大サイズ
docsearchsqldb	行データ	PRIMARY	256	64 MB 単位で無制限
docsearchsqldb_log	ログ	適用なし	64	64 MB 単位で無制限

データベースの格納場所を指定します。

パス
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.SQLEXPRESS\MSSQL\DATA\
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.SQLEXPRESS\MSSQL\DATA\

フォルダ参照ボタンをクリック



パスは、下記のように表示されます。

パス
D:\DocSearchdb
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.SQLEXPRESS\MSSQL\DATA

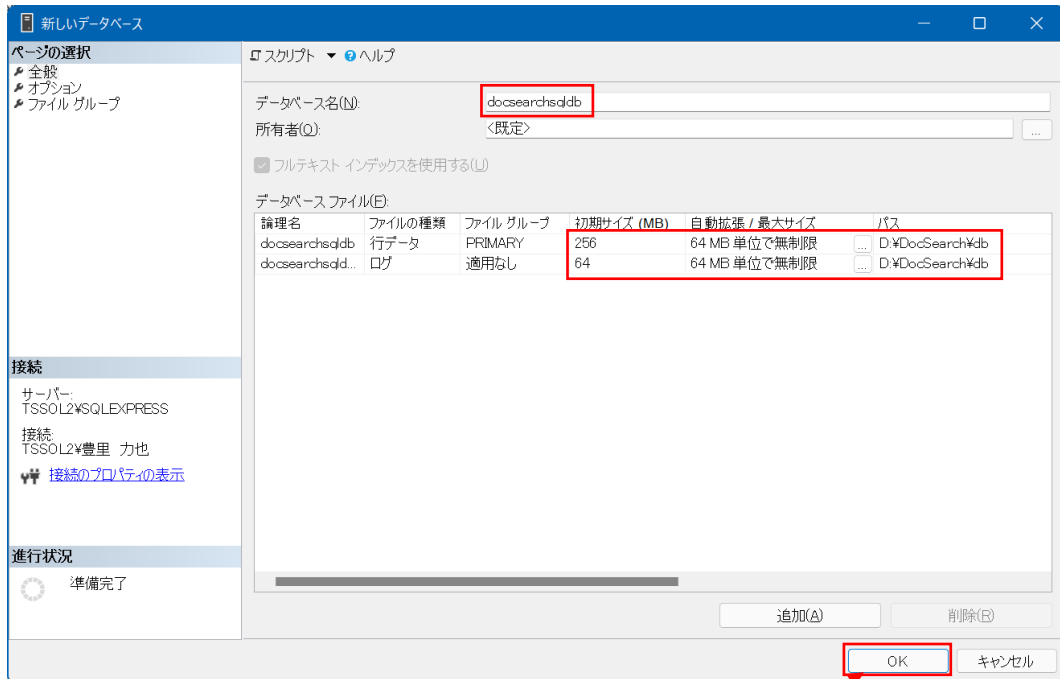
同様にログについても格納場所を指定します。

パス
D:\DocSearchdb
D:\DocSearchdb

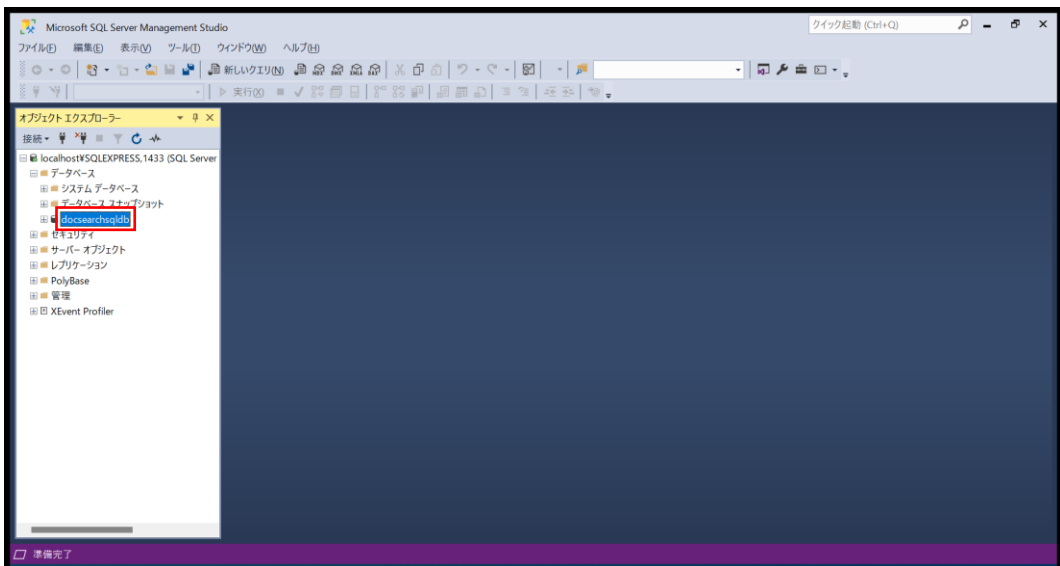
初期サイズ、自動拡張/最大サイズ、パスが、下記の通り指定されている事を確認します。

データベース ファイル(F):					
論理名	ファイルの種類	ファイル グループ	初期サイズ (MB)	自動拡張 / 最大サイズ	パス
docsearchsqldb	行データ	PRIMARY	256	64 MB 単位で無制限	D:\DocSearchdb
docsearchsqldb_log	ログ	適用なし	64	64 MB 単位で無制限	D:\DocSearchdb

問題なく指定されている事を確認したら、「OK」をクリックします。



オブジェクトエクスプローラのデータベースに docsearchsqldb が表示されていれば、問題なくデータベースが作成されています。



D:\DocSearch\docsearchsqldb には、下記のデータベースファイルが作成されています。

docsearchsqldb.mdf

docsearchsqldb_log.ldf

6.7 テーブルを作成する

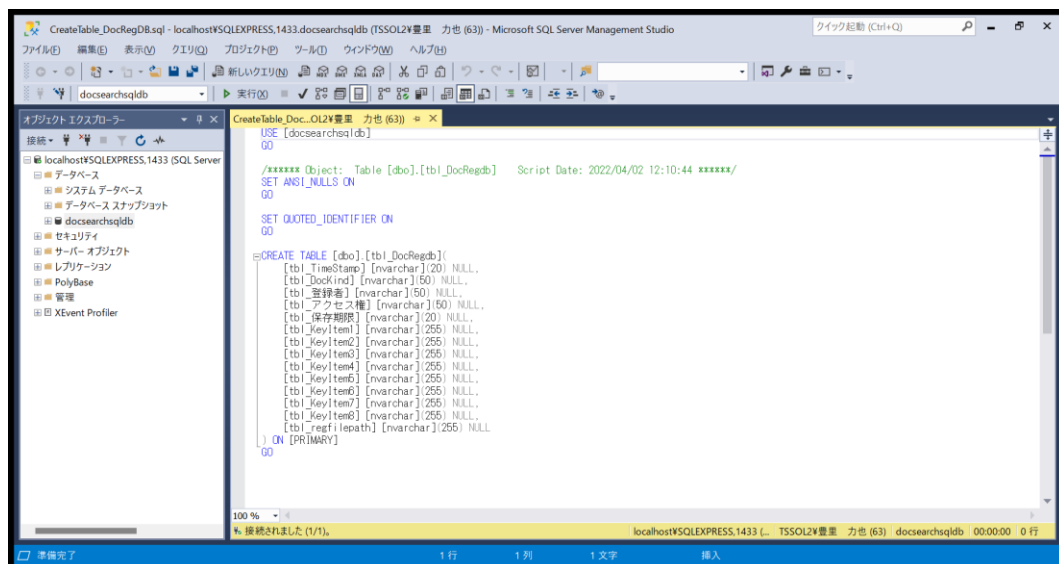
テーブル作成用スクリプトファイルは、らくらくドキュメントサーチダウンロードサイトからダウンロードした docsearchsqlcmd.zip 内に存在しています。

作成するテーブルとテーブル作成用 sql コマンドは以下の通りです。

作成するテーブル名	用途	sql コマンドファイル名
tbl_DocRegDB	検索キーデータ	CreateTable_DocRegDB.sql
tbl_UserAccount	利用者情報管理	CreateTable_UserAccount.sql
tbl_Log	ログ	CreateTable_Log.sql

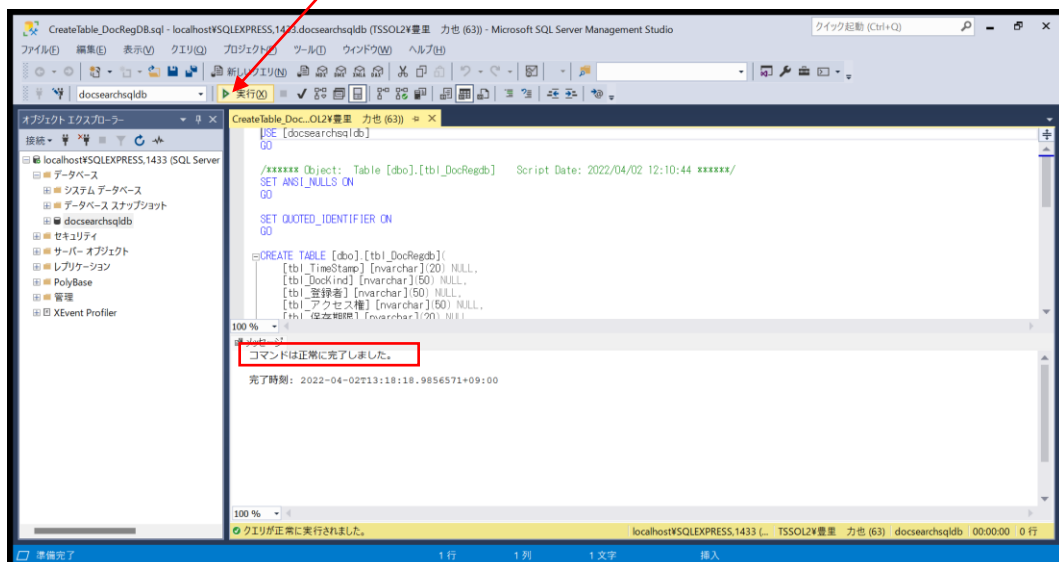
SQLServer Management Studio を Windows 認証で起動します。

メニューバーのファイル>開く>ファイルから、あらかじめダウンロードした sql コマンドファイルの CreateTable_DocRegDB.sql を指定して取り込みます。

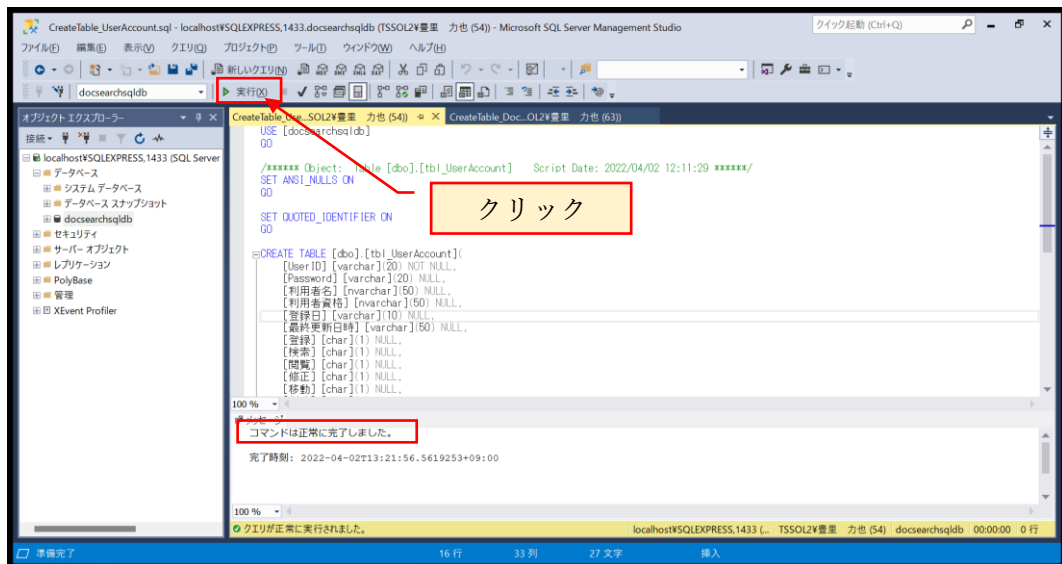


「実行」をクリックします。

クリック

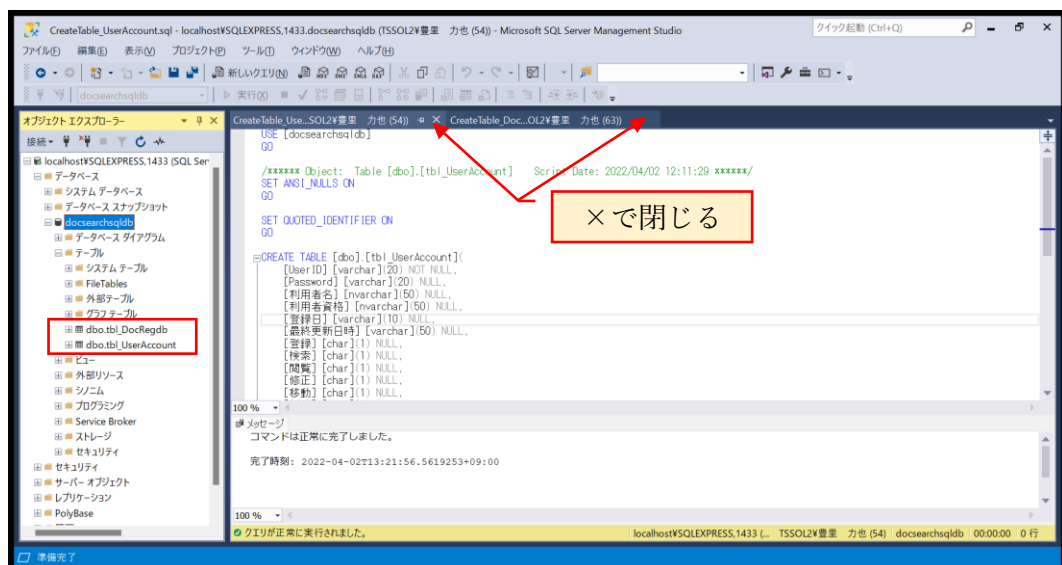


同様に、CreateTable_UserAccount.sql を開いて実行します。



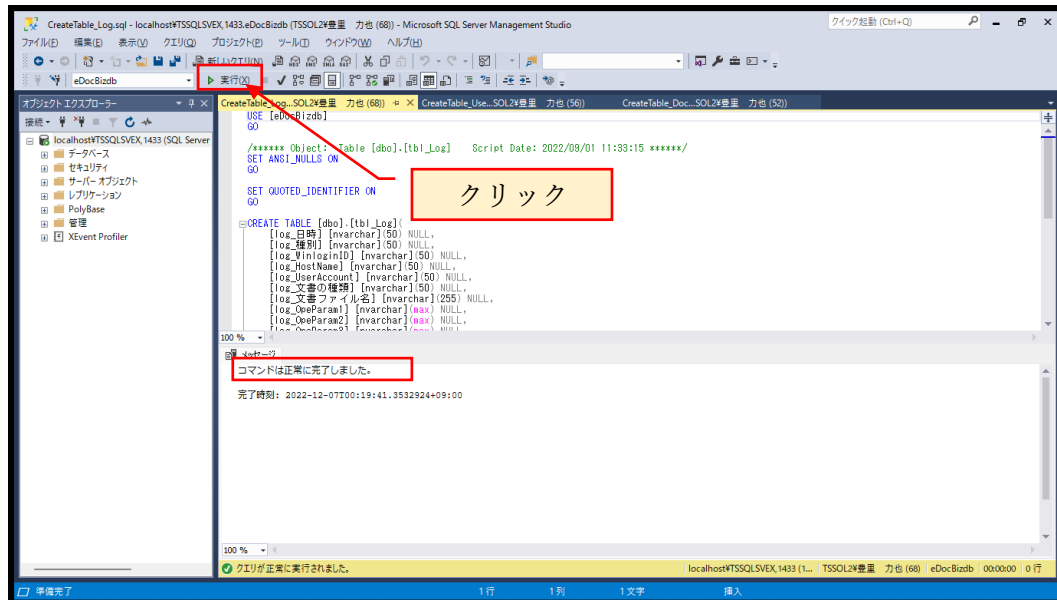
「コマンドは正常に完了しました。」と表示されている事を確認します。

データベース>docsearchsqldb>テーブルを展開して、下記のテーブルが存在している事を確認します。



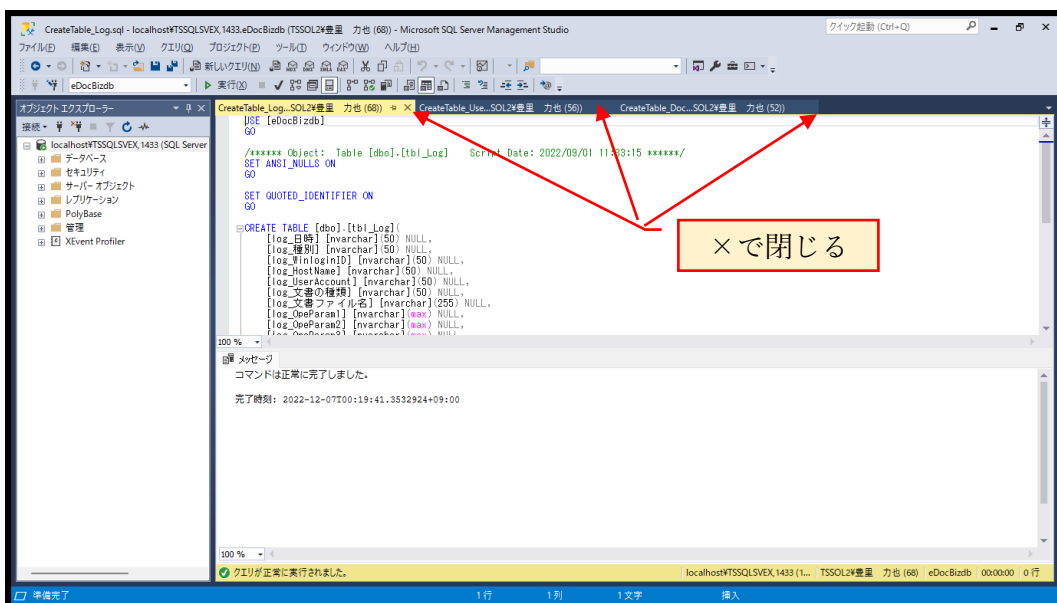
- データベース
 - システム データベース
 - データベース スナップショット
 - docsearchsqldb
 - データベース ダイアグラム
 - テーブル
 - システム テーブル
 - FileTables
 - 外部テーブル
 - グラフ テーブル
 - dbo.tbl_DocRegdb
 - dbo.tbl_UserAccount
 - ビュー
 - 外部リソース
 - シーム
 - プログラミング
 - Service Broker
 - ストレージ
 - セキュリティ
 - サーバー オブジェクト
 - レプリケーション

同様に、CreateTable_Log.sql を開いて実行します。

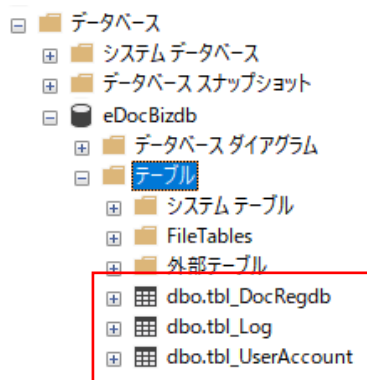
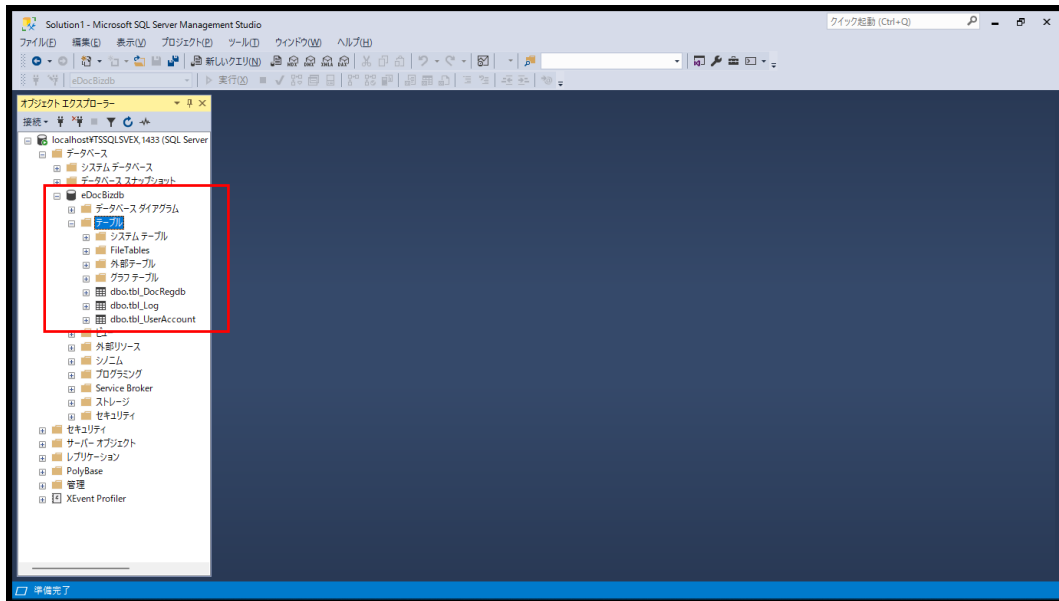


「コマンドは正常に完了しました。」と表示されている事を確認します。

表示されているテーブル作成用のスクリプトタブを×で閉じます

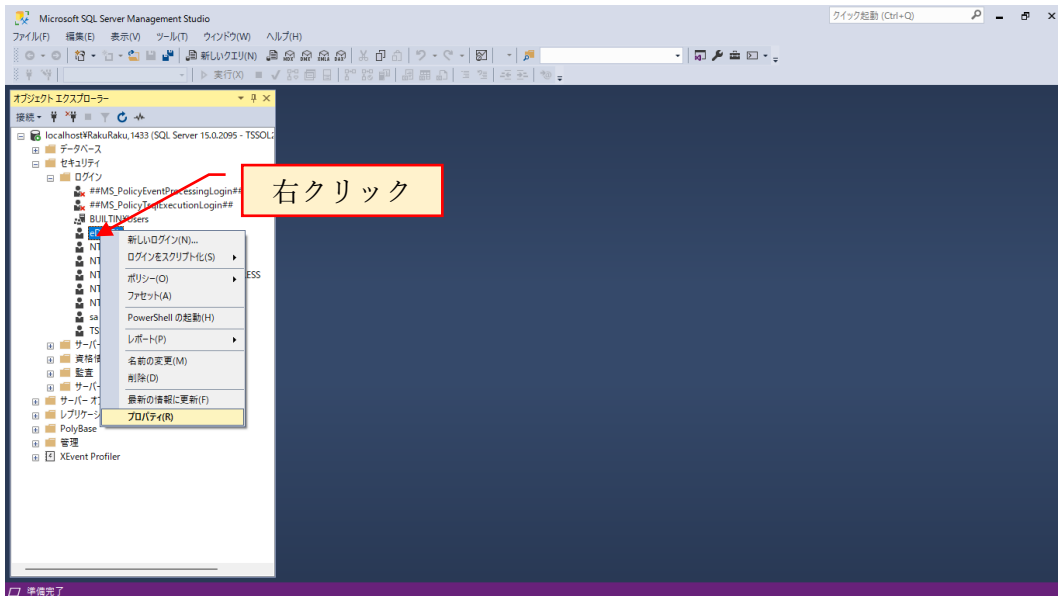


データベース>DocSearchsqlldb>テーブルを右クリックして表示されるショートカットメニューから、「最新の情報に更新」をクリックします。
3つのテーブルが作成されている事を確認します。

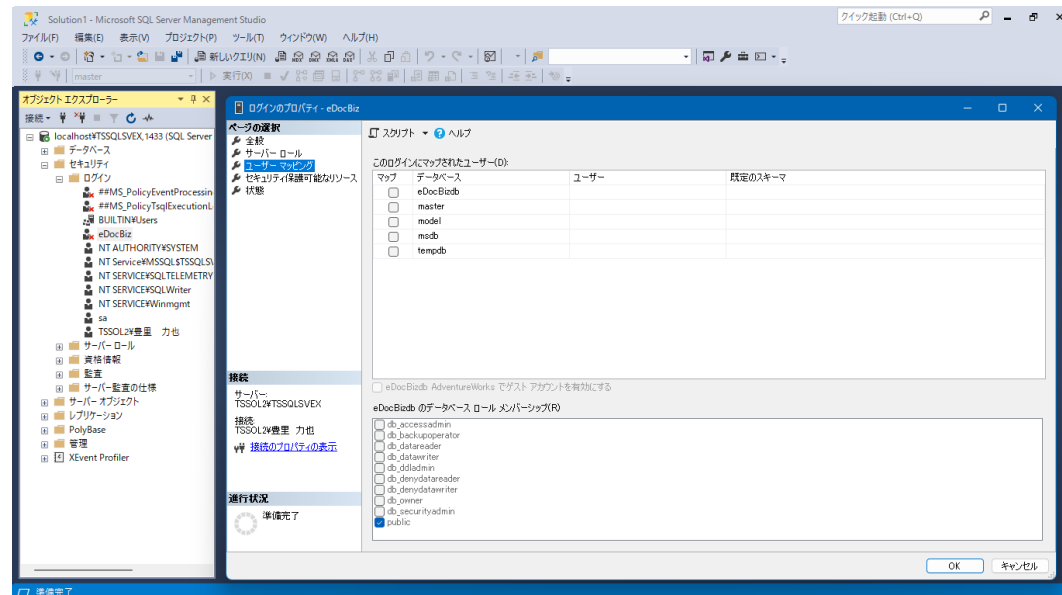


6.8 データベースユーザを作成する

セキュリティ>ログイン>DocSearch を選択し右クリックでプロパティを表示します。



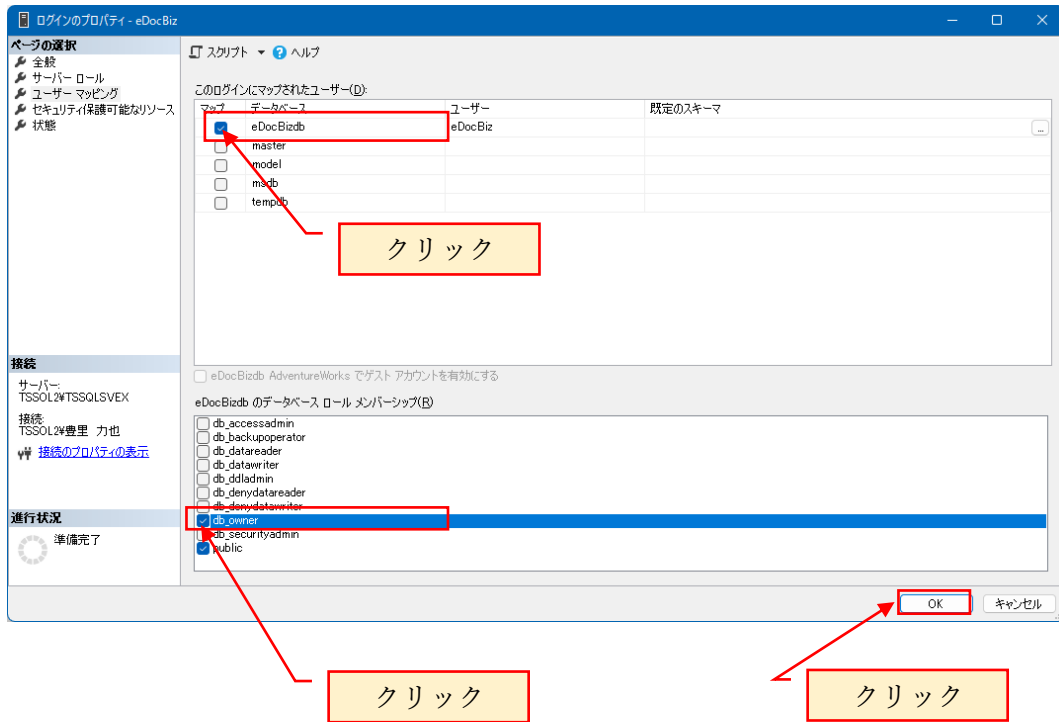
ユーザマッピングを選択



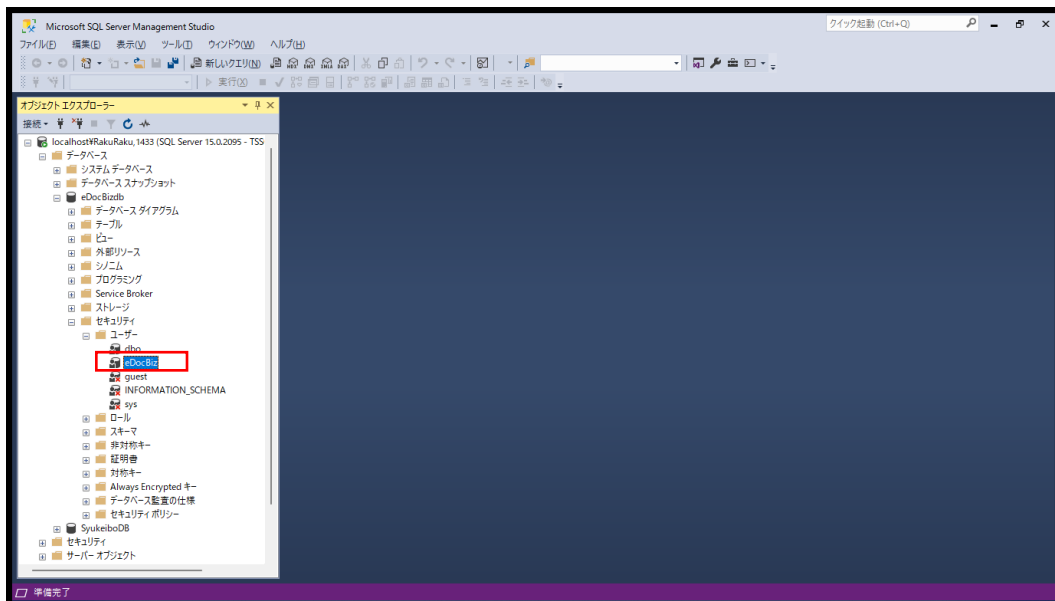
ページの選択

- 全般
- サーバー ロール
- ユーザー マッピング**
- セキュリティ保護可能なリソース
- 状態

DocSearchsqlldb にチェックを入れて、データベースロールメンバシップの db_owner にチェックを入れます。



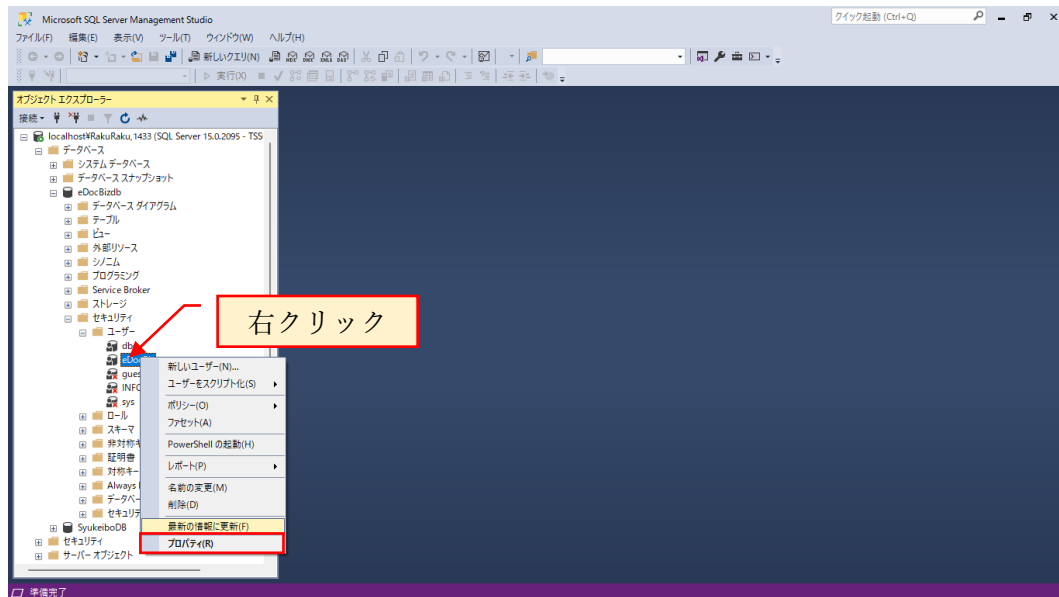
データベース>DocSearchsqlldb>セキュリティ>ユーザーに DocSearch が作成されていることを確認します。



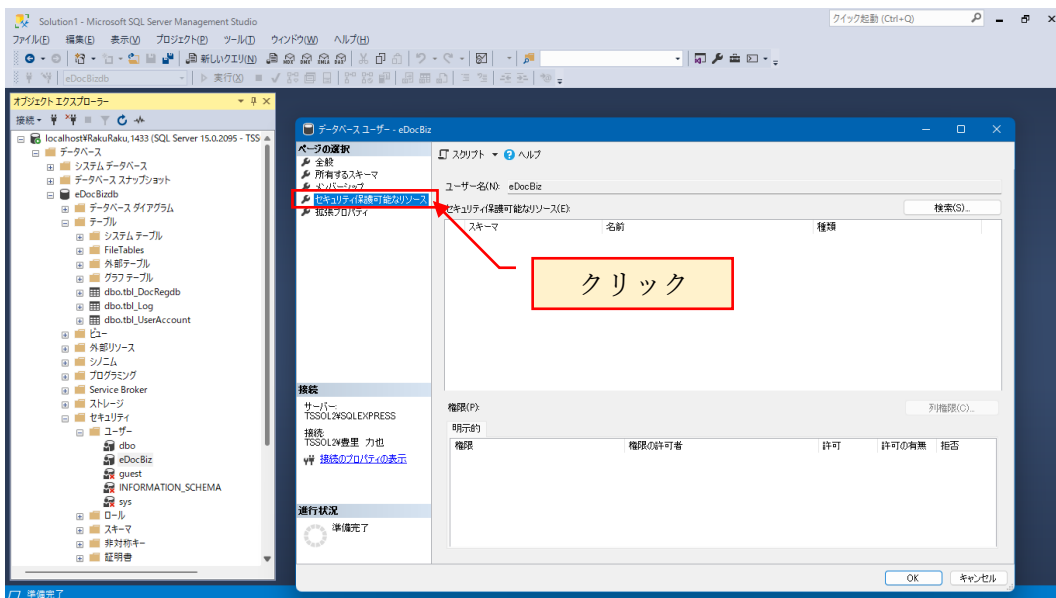
6.9 セキュリティ可能なリソースを設定する

データベース>DocSearchsqlldb を展開

DocSearchsqlldb>セキュリティ>ユーザ>DocSearch を選択してプロパティを表示します。

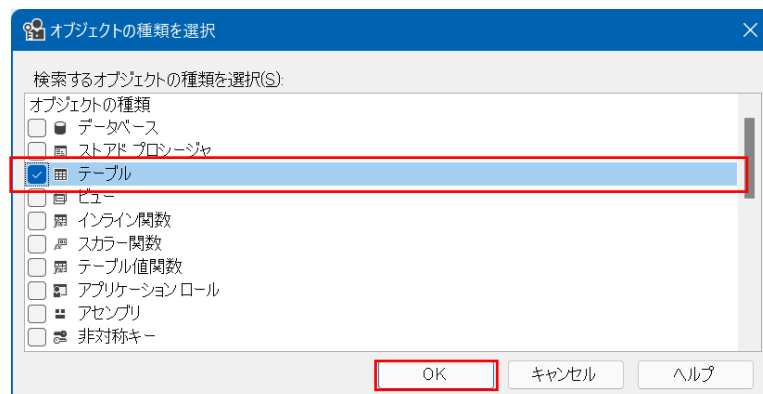
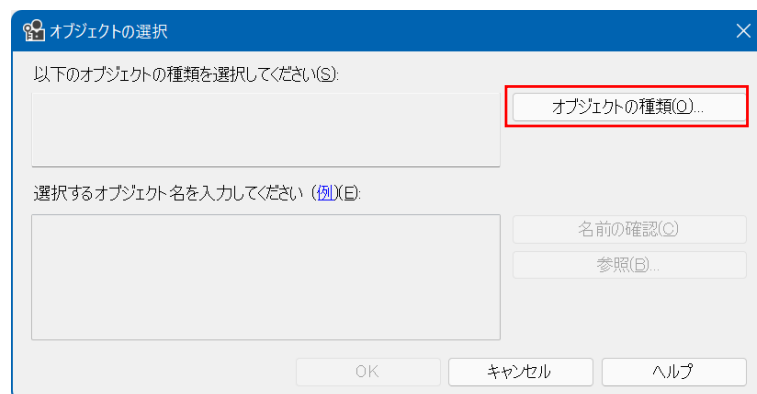
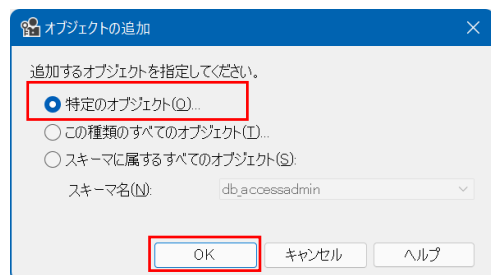
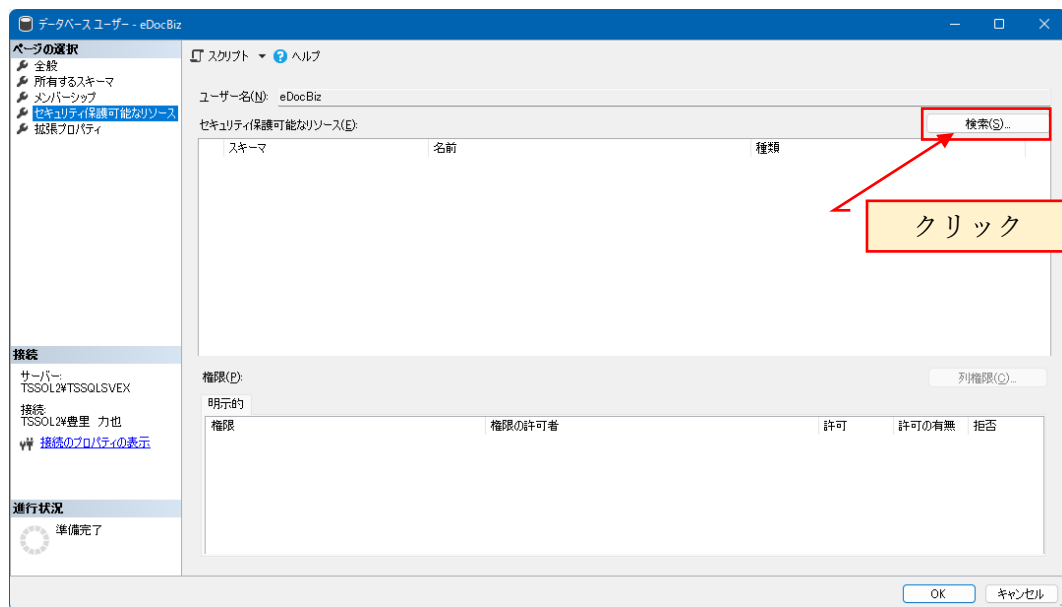


セキュリティ保護可能なリソースを選択します。



ページを選択	
☒	全般
☒	所有するスキーマ
☒	メンバーシップ
☒	セキュリティ保護可能なリソース
☒	拡張プロパティ

セキュリティ可能なリソースの「検索」をクリックします。



オブジェクトの選択

以下のオブジェクトの種類を選択してください(S):

テーブル

オブジェクトの種類(O)...

選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):

名前を確認(C)

参照(R)...

OK キャンセル ヘルプ

オブジェクトの参照

選択した種類に一致する 3 個のオブジェクトが見つかりました。

一致するオブジェクト(M):

	名前	種類
☐	[dbo].[tbl_DocRegdb]	テーブル
☐	[dbo].[tbl_Log]	テーブル
☐	[dbo].[tbl_UserAccount]	テーブル

OK キャンセル ヘルプ

3つのテーブルにチェックを入れます。

オブジェクトの参照

選択した種類に一致する 3 個のオブジェクトが見つかりました。

一致するオブジェクト(M):

	名前	種類
☒	[dbo].[tbl_DocRegdb]	テーブル
☒	[dbo].[tbl_Log]	テーブル
☒	[dbo].[tbl_UserAccount]	テーブル

OK キャンセル ヘルプ

オブジェクトの選択

以下のオブジェクトの種類を選択してください(S):

テーブル

オブジェクトの種類(O)...

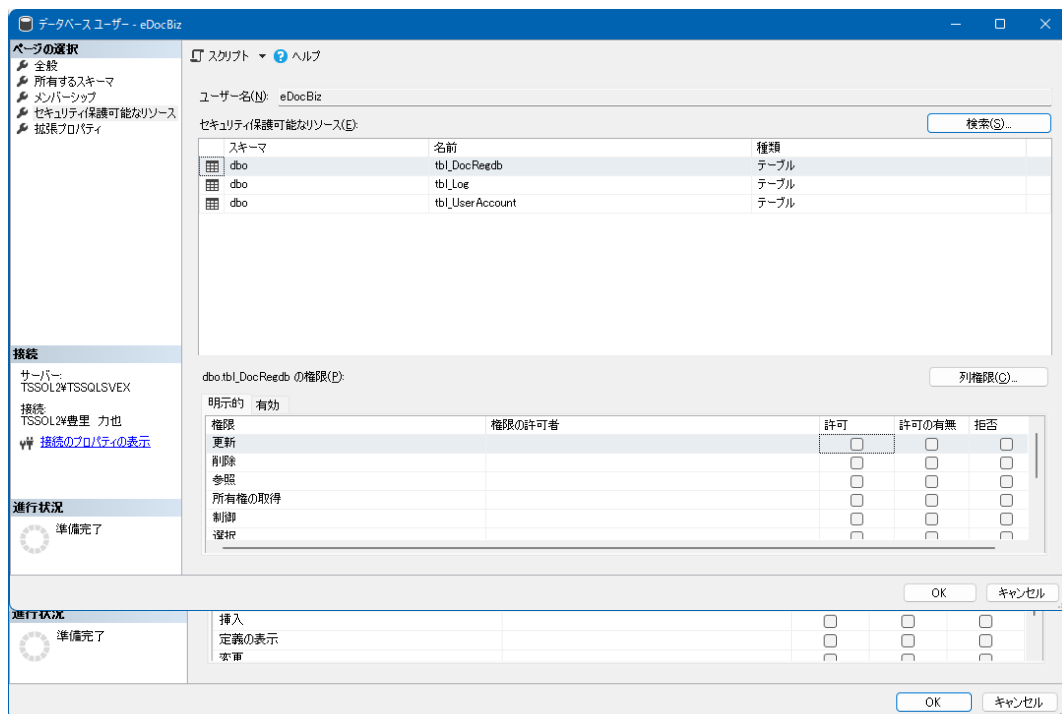
選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):

[dbo].[tbl_DocRegdb]; [dbo].[tbl_Log]; [dbo].[tbl_UserAccount]

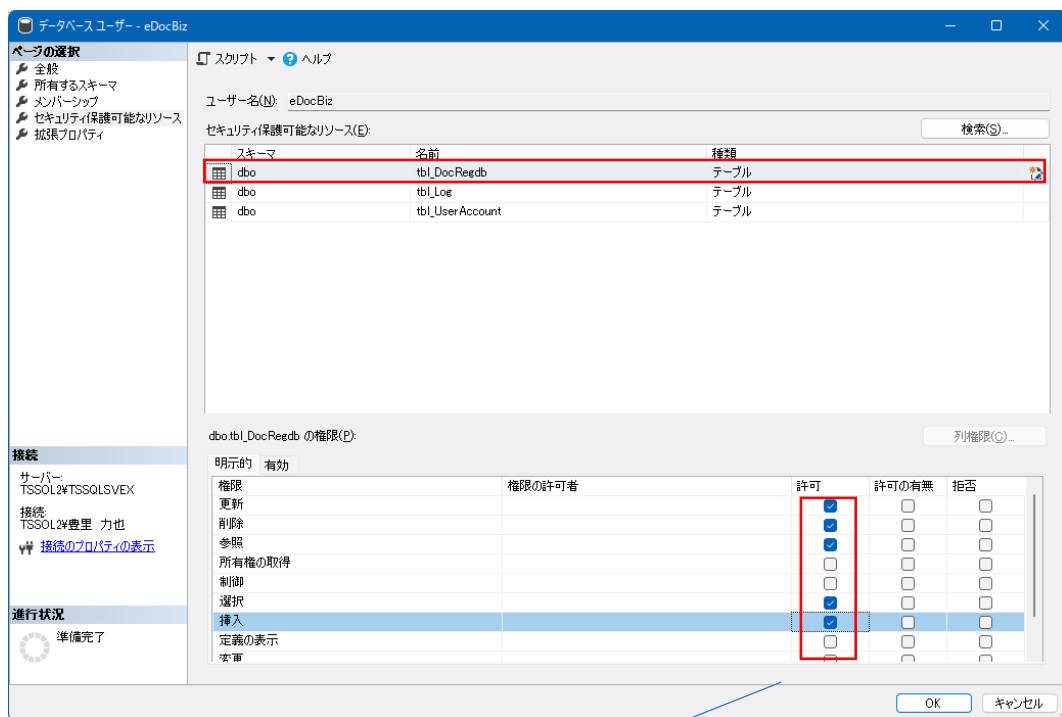
名前を確認(C)

参照(R)...

OK キャンセル ヘルプ

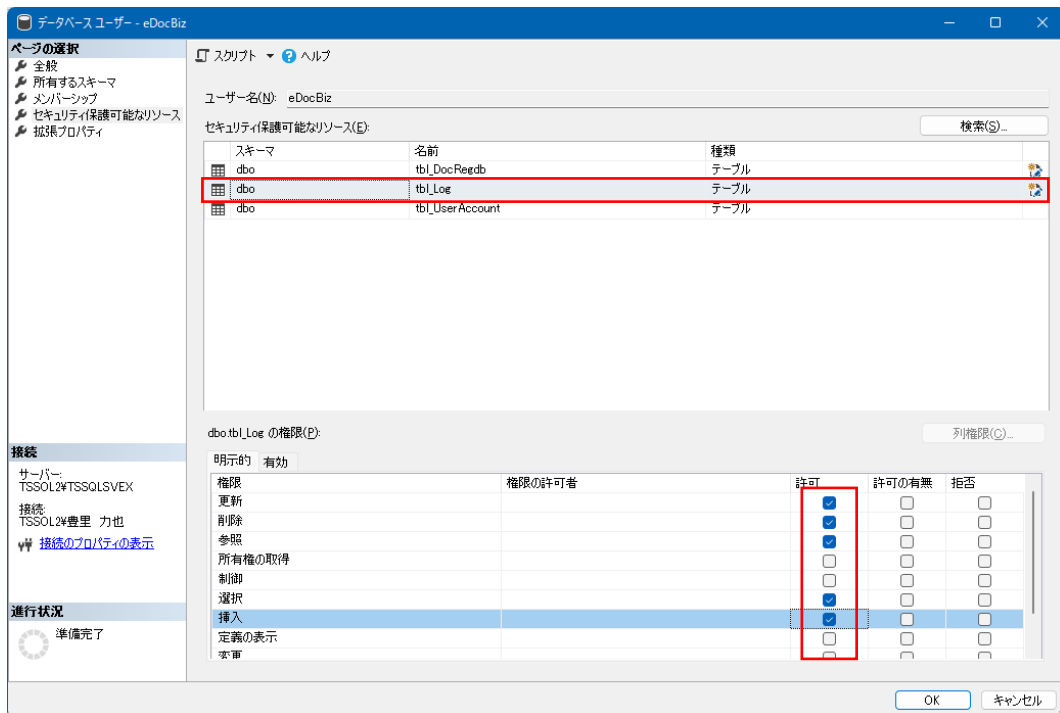


tbl_DocRegdb を選択し、下記の許可をチェックします。

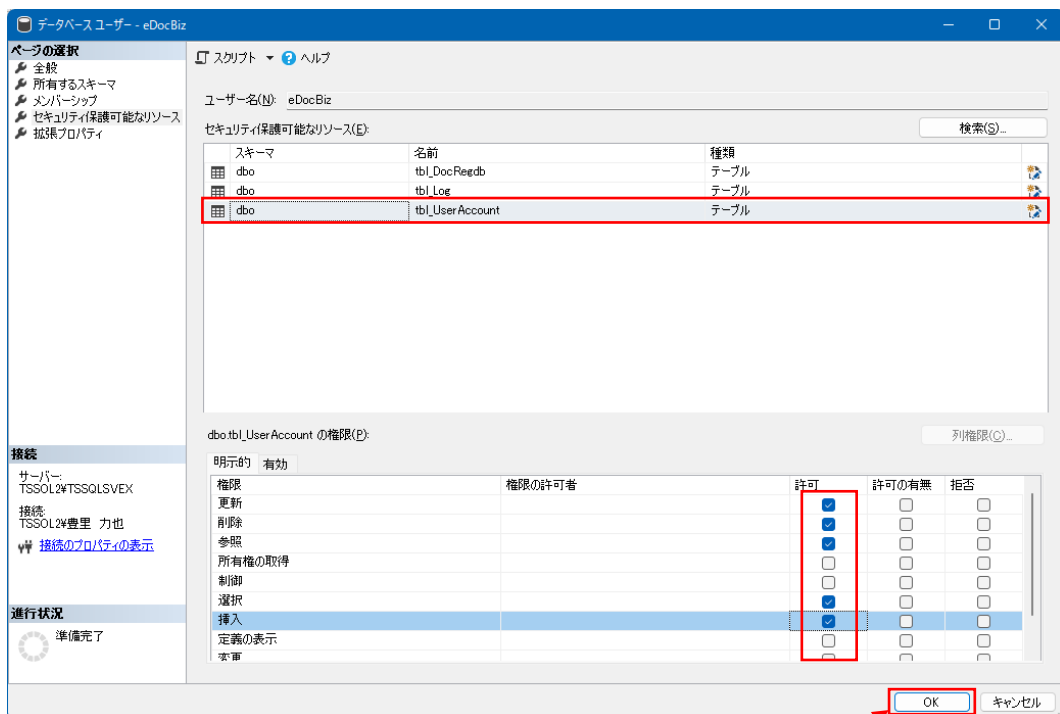


権限	許可
更新	☒
削除	☒
参照	☒
所有権の取得	☐
制御	☐
選択	☒
挿入	☒

同様に、tbl_Log を選択し、許可のチェックを入れます。



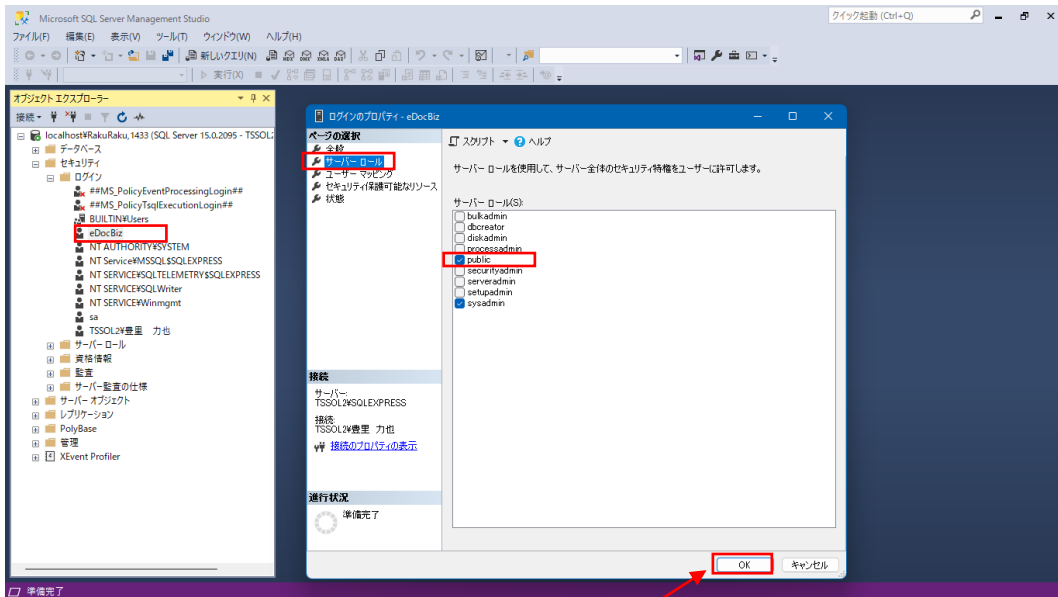
同様に、tbl_UserAccount を選択し、許可のチェックを入れます。



クリック

6.10 データベースユーザに、sysadmin ロールを付与する

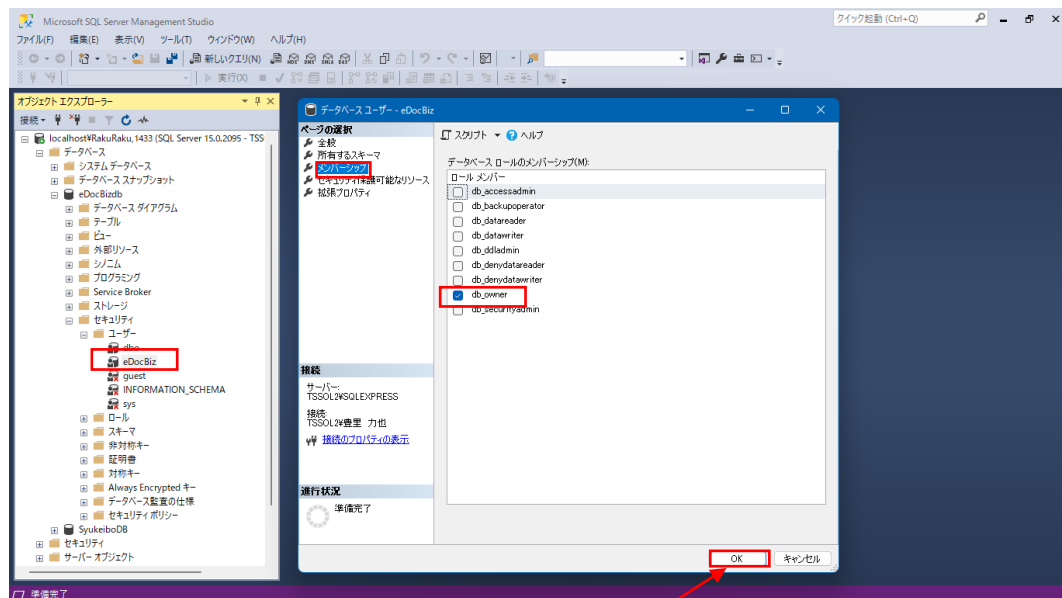
セキュリティ>ログイン>DocSearch を選択し右クリックでプロパティを表示
サーバロール > sysadmin にチェックを入れます。



クリック

データベース>DocSearchsqlldb>セキュリティ>DocSearch のプロパティを表示し、
メンバーシップを選択

ロールメンバーとして db_owner にチェックがあることを確認します。



クリック

接続解除をクリックしてデータベースの接続を解除します。

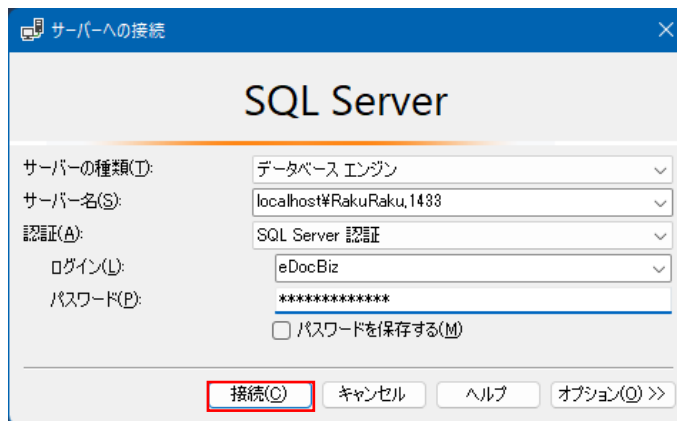
6.11 データベースがリモート接続可能な設定を行なう

接続をクリックし、SQL Server 認証でログインします。

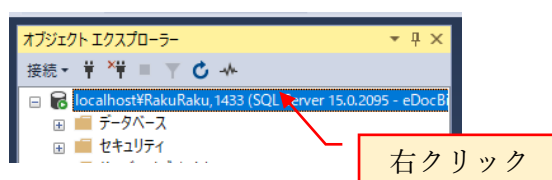
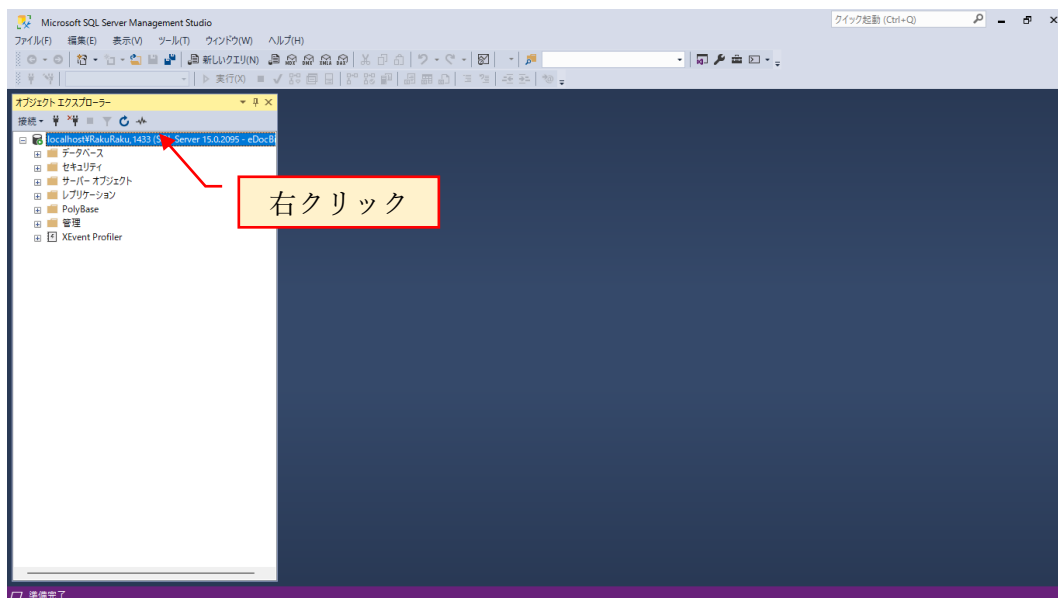
サーバ名は、下記では Tssol1 となっていますが、実際には SQL Server がインストールされている PC のホスト名となります。

ログイン名：DocSearch

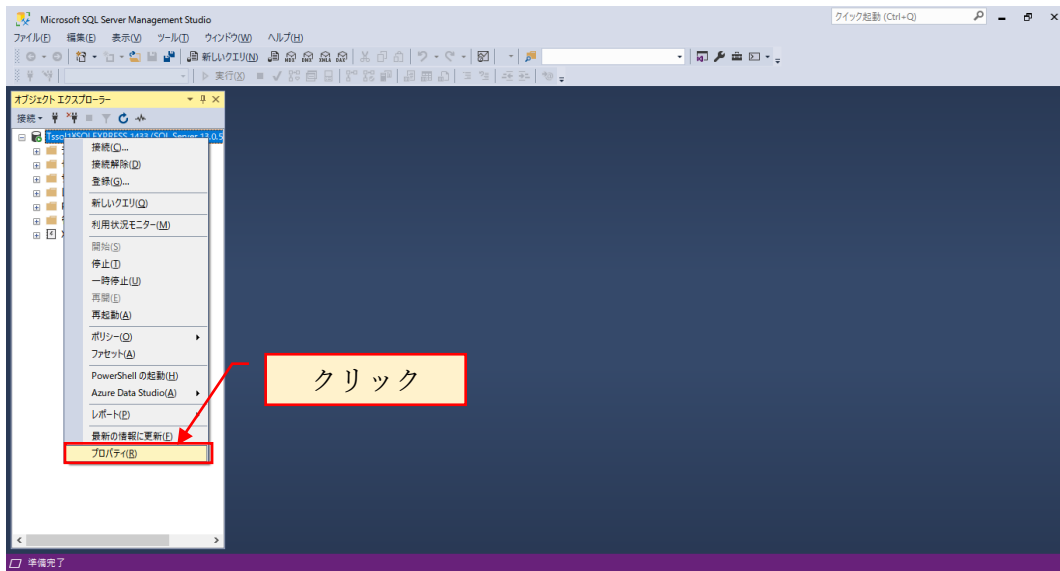
パスワード：DocSearch!admin



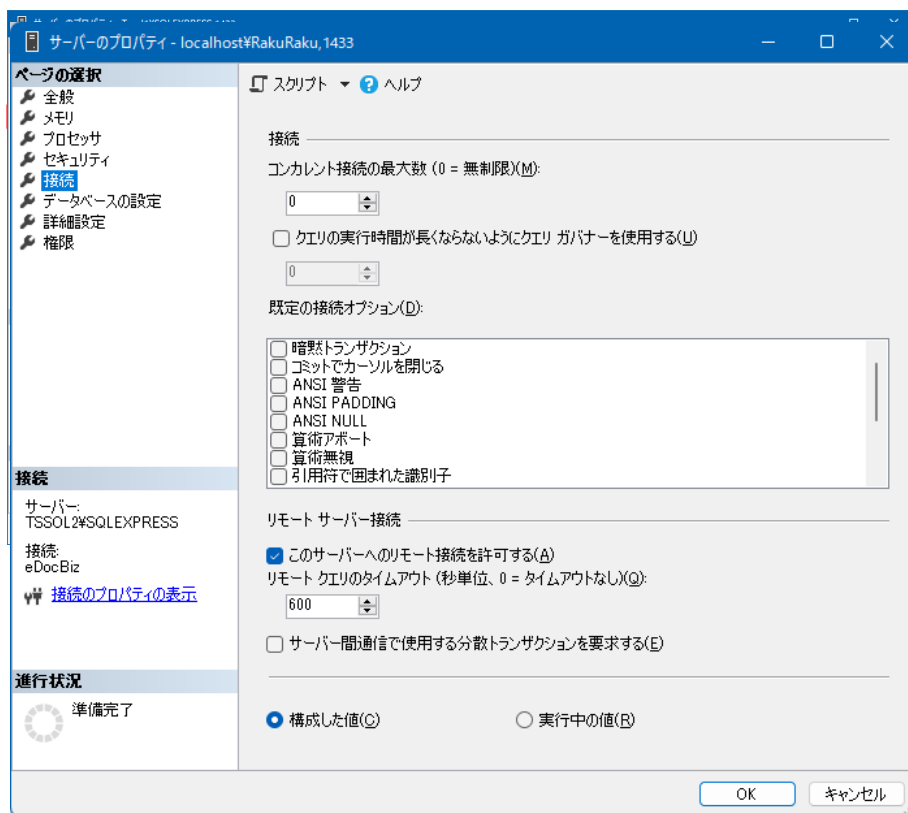
オブジェクトエクスプローラ



ショートカットメニューのプロパティをクリックすると下記の画面が表示されます。



ページの選択で「接続」をクリックし、「☐このサーバへのリモート接続を許可する」のチェックボックスにチェックが入っていることを確認します。



閉じるボタンで SQL Server ManagementStudio を終了します。
以上で SQL Server の設定が終了です。

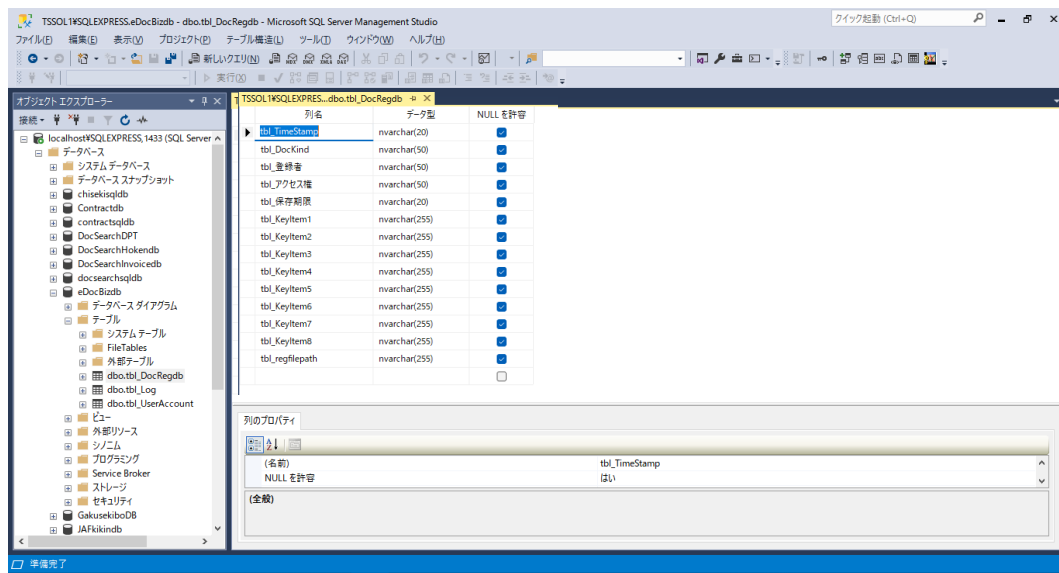
7. テーブル仕様

らくらくドキュメントサーチで使用するテーブルデザインについて以下に記載します。
SQL Management Studio を起動し、SQL Server 認証でログインします。

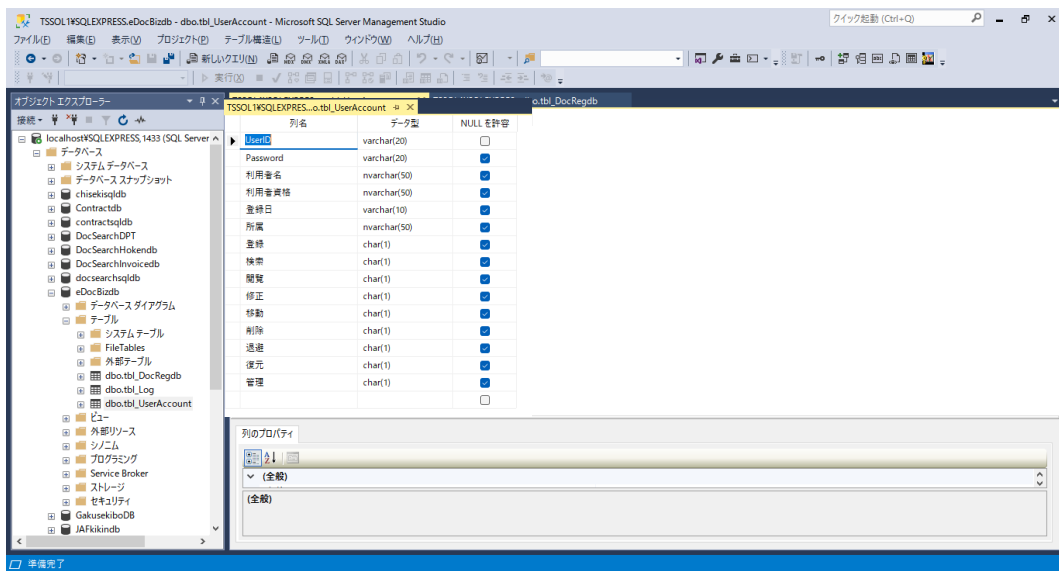
オブジェクトエクスプローラからデータベースを展開し、テーブルを選択します。
テーブルデザイン仕様を表示するには、各テーブルを選択した状態で右クリックし
「デザイン」をクリックすると表示されます。

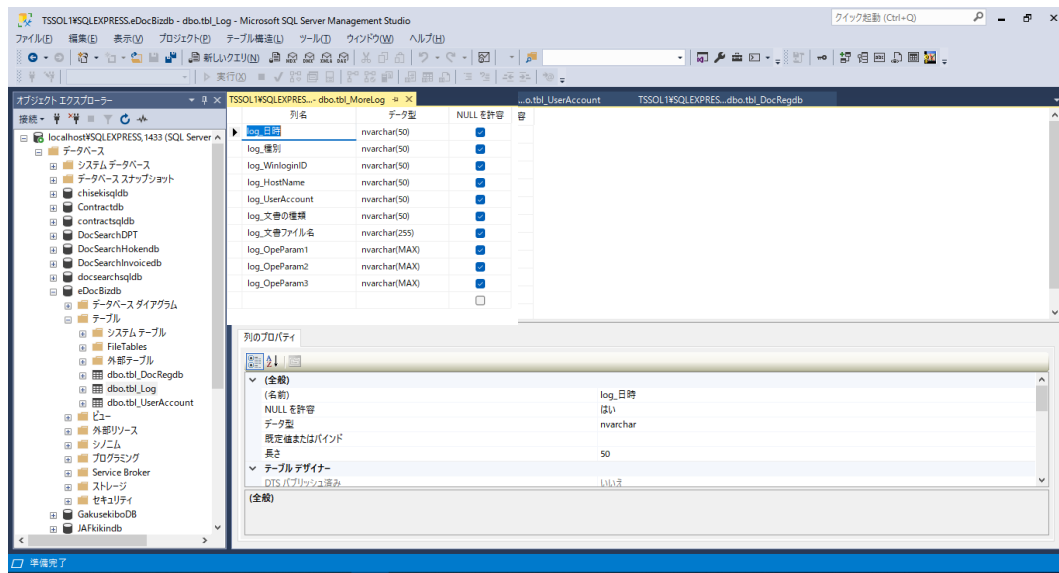
以下、テーブルデザインの内容を記載します。

検索データ：tbl_DocRegdb



利用者情報テーブル：tbl_UserAccount





8. 添付資料

8.1 検索キーデータテーブル作成用 SQL スクリプト

ファイル名：CreateTable_DocRegDB.sql
スクリプトの内容：

```
USE [docsearchsqldb]
```

```
GO
```

```
/***** Object:  Table [dbo].[tbl_DocRegdb]      Script Date: 2025/04/10 10:19:46
```

```
*****/
```

```
SET ANSI_NULLS ON
```

```
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
```

```
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_DocRegdb](  
    [tbl_TimeStamp] [nvarchar](20) NULL,  
    [tbl_DocKind] [nvarchar](50) NULL,  
    [tbl_登録者] [nvarchar](50) NULL,  
    [tbl_アクセス権] [nvarchar](50) NULL,  
    [tbl_保存期限] [nvarchar](20) NULL,  
    [tbl_KeyItem1] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_KeyItem2] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_KeyItem3] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_KeyItem4] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_KeyItem5] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_KeyItem6] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_KeyItem7] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_KeyItem8] [nvarchar](255) NULL,  
    [tbl_regfilepath] [nvarchar](255) NULL
```

```
) ON [PRIMARY]
```

```
GO
```

8.2 利用者情報テーブル作成用 SQL スクリプト
ファイル名：CreateTable_UserAccount.sql
スクリプトの内容：

```
USE [docsearchsqldb]
```

```
GO
```

```
/***** Object:  Table [dbo].[tbl_UserAccount]      Script Date: 2025/04/10 10:12:12
```

```
*****/
```

```
SET ANSI_NULLS ON
```

```
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
```

```
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_UserAccount](  
    [UserID] [varchar](20) NOT NULL,  
    [Password] [varchar](20) NULL,  
    [利用者名] [nvarchar](50) NULL,  
    [利用者資格] [nvarchar](50) NULL,  
    [登録日] [varchar](10) NULL,  
    [所属] [nvarchar](50) NULL,  
    [登録] [char](1) NULL,  
    [検索] [char](1) NULL,  
    [閲覧] [char](1) NULL,  
    [修正] [char](1) NULL,  
    [移動] [char](1) NULL,  
    [削除] [char](1) NULL,  
    [退避] [char](1) NULL,  
    [復元] [char](1) NULL,  
    [管理] [char](1) NULL
```

```
) ON [PRIMARY]
```

```
GO
```

8.3 ログテーブル作成用 SQL スクリプト

ファイル名：CreateTable_Log.sql

スクリプトの内容：

```
USE [docsearchsqlldb]
GO
```

```
/****** Object:  Table [dbo].[tbl_Log]      Script Date: 2025/04/10 10:12:57 *****/
SET ANSI_NULLS ON
GO
```

```
SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO
```

```
CREATE TABLE [dbo].[tbl_Log](
    [log_日時] [nvarchar](50) NULL,
    [log_種別] [nvarchar](50) NULL,
    [log_WinloginID] [nvarchar](50) NULL,
    [log_HostName] [nvarchar](50) NULL,
    [log_UserAccount] [nvarchar](50) NULL,
    [log_文書の種類] [nvarchar](50) NULL,
    [log_文書ファイル名] [nvarchar](255) NULL,
    [log_OpeParam1] [nvarchar](max) NULL,
    [log_OpeParam2] [nvarchar](max) NULL,
    [log_OpeParam3] [nvarchar](max) NULL
) ON [PRIMARY] TEXTIMAGE_ON [PRIMARY]
GO
```

以上



株式会社豊里システムソリューション

〒112-0005

東京都文京区水道2-11-5

明日香ビル1階（Z i t ビジネスセンター内）

E-Mail : info@tssol.jp

<https://www.tssol.jp/>